

# ホームシアター システム

## 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故に  
なることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示し  
ています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。  
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

# ⚠️ 警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



## 安全のための注意事項を守る

2~10ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

11ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

## 定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりと差し込まれているか、などを点検してください。

## 故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

### 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

#### ⚠️ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

#### ⚠️ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

### 注意を促す記号



火災 感電 指のケガに注意

### 行為を禁止する記号



禁止 分解禁止 接触禁止 ぬれ手禁止

### 行為を指示する記号



指示 プラグをコンセントから抜く

# ⚠ 警告 安全のために

## 万一、異常が起きたら

変な音・におい  
がしたら、煙が  
出たら



- ①電源を切る
- ②電源プラグを  
コンセントか  
ら抜く
- ③お買い上げ店  
またはソニー  
サービス窓口  
に修理を依頼  
する



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

### 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止

### 本機の上に重たいものや不安定なものを置かない

感電や故障の原因となります。



禁止

### 湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のある場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



禁止

### 内部に水や異物を入れないようにする

水が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置いたり、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

- 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

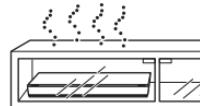


禁止

### 設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- 热のこもりやすい所



### 本機は室内専用です

乗物の中や船舶の中などで使用しないでください。



指示



**警告**



**火災**



**感電**

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

## キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

- 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



**分解禁止**

## 雷が鳴り出したら、本体や電源プラグには触れない

感電の原因となります。



**接触禁止**

## 本機は国内専用です

交流 100V の電源でお使いください。

海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。また、コンセントの定格を超えて使用しないでください。



**指示**

## 可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



**禁止**

## 電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する。

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。



**指示**

## 心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm以上離して使用する

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



**禁止**

## 病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤作動による事故の原因となるおそれがあります。



**禁止**

## 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤作動による事故の原因となるおそれがあります。



**禁止**



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

## 電源を「切」にしているときのご注意

本機はリモートスタートをしたり、テレビとの高速連動（HDMI 機器制御機能）をするために、電源が「切」の状態でも、一時的に本機の内部のシステムが起動することがあります。これにより、本機の冷却ファンが動作することがあります、故障ではありません。

- 次のようなときは、電源が「切」の状態でも動作音がすることがあります。
  - [HDMI 設定] の [HDMI 機器制御] が [入] に設定されているとき
  - [リモート起動] が [入] に設定されている場合

## 設置について

障害防止のため、この機器は、設置説明に従って床又は壁にしっかりと取り付ける必要があります。



指示



## 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

### ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止



禁止

### 風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

本機に新聞紙、テーブルクロス、カーテン、布などをかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上、または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。火災の原因となります。



禁止

### 安定した場所に置く

水平で丈夫な場所に置いてください。ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

本機を本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。

### 機種名の記載位置について

機銘板は、本体の底面に表示しています。

### USBの定格の記載位置について

定格は、USB 端子の近くに表示しています。

### 大音量で長時間続けて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



禁止



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺  
の家財に損害を与えたりすることがあります。

### コード類は正しく配置する

AV ケーブルや電源コードは足  
にひっかけると機器の落下や  
転倒などにより、けがの原因  
となることがあります。充分  
に注意して接続、配置してください。



禁止

### 移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは  
安全のため電源プラグを  
コンセントから抜いてく  
ださい。絶縁劣化、漏電  
などにより火災の原因となることがあ  
ります。



スラグをコン  
セントから抜く

### 移動させるとき、すべての AV ケーブルや電源コードを抜く

AV ケーブルや電源コードは足  
にひっかけると機器の落下や  
転倒などにより、けがの原因  
となることがあります。



指示

### お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだ  
まま、お手入れをすると、  
感電の原因となることが  
あります。



スラグをコン  
セントから抜く

# 電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

## ⚠ 警告

### 電池の液が漏れたときは

#### 素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることがあります。



接触禁止

#### 必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

### 電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



禁止

- 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

# 電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

## ⚠ 注意

### 指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- マンガン電池をお使いください。  
電池の品番を確かめ、お使いください。



禁止



指示

### リモコンの電池フタを開けて使用しない

リモコンの電池フタを開けたまま使用すると、漏液、発熱、発火、破裂などの原因となることがあります。

- マンガン電池を使用し、フタを閉めて使用してください。  
電池を火のそばや直射日光のあたるところなど、高温の場所で使用、保管、放置しないで下さい。破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

### +と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

### 使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

# 使用上のご注意

本機は、コンセントの近くでお使いください。本機をご使用中、異常な音やにおい、煙がでたときはすぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

## 本機の起動と終了について

本機はシステム全体の最適化を図るために、電源入切時に電源ボタンを押してから、実際に起動するまでと実際に電源が切れるまでしばらく時間がかかります。電源が切れる前にコンセントから電源プラグを抜くと、故障の原因になります。

**残像現象(画像の焼きつき)のご注意**  
本機のメニュー画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象を起こす場合があります。

## 設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- 振動の多い所。
- 直射日光が当る所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所、極端に暑い所。

また、本機の上に花瓶など水の入った容器を置いたり、水のかかる場所で使用しないでください。本機に水がかかると故障の原因となります。

## 設置場所を変えるときは

配線／接続作業を行うときは本機の電源を切り、本機の電源が切れていることを確認してから電源プラグをコンセントから必ず抜いてください。

## 結露(露つき)について

結露とは空気中の水分が冷えた金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋で、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。

結露が起きた場合、結露がなくなるまで、そのまま放置してください。

- 電源プラグをコンセントに差し込んでいない場合  
電源プラグをコンセントに差し込んで、そのまま放置してください。
- 電源を入れていない場合  
電源を入れないで、そのまま放置してください。
- 電源を入れている場合  
電源を入れたまま放置してください。  
結露があるときにご使用になると、故障の原因になります。

## 本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

## 再生を開始するときは

音量を必ず下げておきましょう。初めから音量を上げていると思わぬ大きな音が出てスピーカーを破損させたりするおそれがあります。

## 映画や音楽を楽しむときは

映画や音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るもので。窓を閉めたりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

## HDMI出力端子につなぐときのご注意

次のような場合、HDMI出力端子やコネクターを破損させるおそれがありますのでご注意ください。

- ケーブルを差し込むときは、本体後面のHDMI出力端子とコネクターの形や向きに注意してください。



コネクターが逆さ 曲がっている  
になっている

- 本機を移動させるときは、必ずHDMIケーブルを抜いてください。



- HDMIケーブルを抜き差しするときは、コネクターをまっすぐ持ってください。コネクターをねじ曲げたり、HDMI出力端子に強く押しこんだりしないでください。

## 著作権／商標について

- 本機はドルビー<sup>\*</sup> デジタルおよびドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS<sup>\*\*</sup> およびDTS96/24 デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

\* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。 Dolby、ドルビー、Pro Logic、"AAC" ロゴ及びダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

\*\* DTSの特許については、  
<http://patents.dts.com>をご参照ください。DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、およびDTSとシンボルの組み合わせは、DTS, Inc.の登録商標です。 © DTS, Inc. All Rights Reserved.

- 本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI)<sup>™</sup> 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

- "ブリーフリンク" および "BRAVIA Link" ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

•"AVCHD/Progressive" および "AVCHD/Progressive" ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

- "x"、"cross media bar" および "XMB" は、ソニー株式会社および株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

•"PlayStation" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

- Wi-Fi<sup>®</sup>、Wi-Fi Protected Access<sup>®</sup> および Wi-Fi Alliance<sup>®</sup> は、Wi-Fi Alliance の登録商標です。

- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™、Wi-Fi Protected Setup™、Miracast™ および Wi-Fi CERTIFIED Miracast™ は、Wi-Fi Alliance の商標です。
  - N マークは NFC Forum, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
  - App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
  - Android™ は Google Inc. の商標です。
  - Google Play™ は Google Inc. の商標です。
  - "Xperia" は、Sony Mobile Communications AB の商標です。
  - Bluetooth® ワードマークとロゴは Bluetooth SIG, Inc. の所有であり、ソニーはライセンスに基づきこのマークを使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。
  - 本機は Fraunhofer IIS および Thomson の MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
  - Windows Media は米国および／またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。
- 本製品には Microsoft の知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- コンテンツ所有者は、Microsoft PlayReady™ のコンテンツアクセス技術を利用して、著作権保護コンテンツ等の知的財産を保護しています。本機は PlayReady で保護されたコンテンツおよび／または WMDRM で保護されたコンテンツへのアクセスに PlayReady 技術を利用しています。本機がコンテンツの利用を正しく制限しない場合、コンテンツ所有者は、PlayReady で保護されたコンテンツを利用する機器の能力を取り消すよう

- Microsoft に要求することができます。この取り消しにより、著作権保護されていないコンテンツまたは他のコンテンツアクセス技術で保護されたコンテンツに影響が及ぶことはありません。コンテンツ所有者は、自らのコンテンツへのアクセスに際し、PlayReady のアップグレードを要求する場合があります。アップグレードを拒否した場合は、アップグレードが要求されるコンテンツにアクセスできないようになります。
- その他すべての商標および商号は各社の所有物です。
  - その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは省略している場合があります。

## エンドユーザー使用許諾契約書

以下の使用許諾書をあらかじめお読みください。

この度は弊社製品（以下「本製品」とします）をお買い上げいただきありがとうございます。本製品の使用を開始される前に必ず、このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」とします）をお読みください。お客様による本製品の使用開始をもって、お客様が本契約の内容をご確認の上、同内容にご同意いただけたものとさせていただきます。

本契約は、お客様（以下「使用者」とします）と弊社（以下「ソニー」とします）との間における本製品に含まれるソフトウェアの使用許諾に関する条件について規定するものです。また、本契約は、本製品に含まれるソフトウェア（本製品に含まれる弊社が許諾を受けている第三者のソフトウェアを含みます。なお、当該第三者を以下「原権利者」とします）のみならず、同梱の印刷物およびオンラインで提供される情報をも対象としています（以下あわせて「許諾ソフトウェア」とします）。なお、下記のソフトウェア使用許諾契約書と本書のソフトウェアライセンスの各お知らせに記載されておりますソフトウェアの使用許諾条

件に矛盾又は齟齬などがある場合には、各お知らせにかかるソフトウェアの範囲において、各お知らせに記載されております使用許諾条件が優先致します。

## 許諾ソフトウェアの使用許諾

使用者は、許諾ソフトウェアを本契約にて明示的に認められた範囲を除き使用することはできません。許諾ソフトウェアは、本契約に基づいて許諾されますが、使用者に譲渡されるものではありません。許諾ソフトウェアは、本製品上においてのみ使用可能です。また、許諾ソフトウェアは、データファイルを自動的に作成することができ、かかるデータファイルは許諾ソフトウェアの一部とみなします。使用者は、弊社の同意なく、許諾ソフトウェアの一部を許諾ソフトウェアから分離して使用してはならないものとします。また、許諾ソフトウェアの一部または全部の修正、リバースエンジニアリング、逆コンパイルおよび逆アセンブルを行ってはならないものとし、本契約にて許諾された目的においてのみ使用するものとします。さらに、使用者は、許諾ソフトウェアを貸与またはリースしてはならないものとします。なお、使用者は、本製品の売却または譲渡に伴い、許諾ソフトウェアの一切（全ての複製、構成部分、媒体、印刷物および本ソフトウェアのあらゆるバージョンならびにそのアップデート）を譲渡し、かつ、譲受人が本契約の全条項に同意することを条件とし、本契約上の権利を第三者に譲渡することができるものとします。弊社および原権利者は、本契約上、使用者に許諾されていない全ての権利を留保します。許諾ソフトウェアがその動作にあたって使用するソフトウェア、サービスその他の製品の提供が、提供者（第三者プロバイダーを含む）または弊社の判断により中断または終了されることがあります。

## 使用者が提供した情報の利用

使用者が弊社に対して提供するあらゆる情報（あらゆるコメント、データ、質問、回答、提案その他これに準ずるもの

を含みますがこれらに限りません。また、提供の方法を問いません。以下「提供情報」とします）は、全て秘密情報や使用者に帰属する情報ではないものとして弊社は取り扱います。よって、弊社による提供情報の利用は、使用者のいかなる権利（著作権、著作者人格権、プライバシー、所有権、公表権その他の権利を含みますがこれらに限りません）に対する弊社による侵害とみなされないものとします。あらゆる提供情報は、弊社により地域の限定なく使用される可能性があります（翻案・放映・修正・複製・開示・第三者への許諾・上演・公表・出版・販売・送信などを含みますがこれらに限りません）。さらに、使用者は、提供情報についてのあらゆる権利および便益を弊社に譲渡し、弊社は使用者に一切の対価を支払うことなく、提供情報および提供情報に含まれるアイデア、ノウハウ、コンセプト、技術その他の知的財産権を自由に使用することができるものとします。なお、これらの権利は、弊社がそれらの提供情報およびそれらに含まれる知的財産権を使用する義務を負うものではありません。

## 媒体に関する責任の限定

許諾ソフトウェアまたはその一部が媒体により提供された場合、弊社は、使用者に対する提供から 90 日間、当該媒体に材料または製造上の不具合がないことを保証します。かかる保証は、弊社から原則的に本件許諾ソフトウェアの許諾を受けた使用者にのみ適用されます。かかる保証の違反についての弊社の責任および使用者が受けられる対応は、媒体の交換のみに限定されます。上記保証のほか、媒体についての默示の保証（有用性、非侵害、合目的性を含みますが、これらに限りません）は、提供から 90 日間に限定されます。

## 第三者に対する責任

以下のいずれかに関連してまたは起因して、使用者または弊社、弊社役員・従業員その他関係者（以下「補償対象者」とします）と第三者との間で紛争が生じた

場合、使用者は、使用者自身の費用でそれらの紛争を解決するものとし、補償対象者に対して一切の迷惑をかけないものとします。

- 1.使用者による本契約違反または違反のおそれ、
- 2.使用者から弊社に対して本契約に基づいて提供された情報、
- 3.使用者による第三者の権利侵害またはそのおそれ、
- 4.使用者による許諾ソフトウェア、コンテンツサービスまたはコンテンツの損傷、毀損。

使用者は、解決のために代理人を選定し、使用者、弊社または補償対象者を代理せしめる場合は、弊社、その他の関連する補償対象者の同意を得るものとします。使用者およびその代理人は、補償対象者と協議の上、当該紛争を解決するものとします。弊社および補償対象者は、上記の補償を受けることを前提に、自らの費用で、当該紛争を解決する権利を留保します。使用者は、弊社および補償対象者の書面による事前の同意なく、弊社および補償対象者の不利益になるような判断、和解その他一切の活動を行うことはできません。

## 高リスク活動

許諾ソフトウェアは、耐障害性を持ち合わせておらず、また、許諾ソフトウェアの欠陥や誤動作が、身体、生命、個人の財産その他物理的または環境的な損害をもたらすような環境での使用を想定しておらず、そのように設計、製造されていません。弊社、原権利者ならびにそれらの関係者は、特にこれらの環境における許諾ソフトウェアの有効性について明示・黙示を問わず一切保証いたしません。

## 暗号化技術の輸出に関する規制

許諾ソフトウェアおよびコンテンツは、暗号化技術を含んでいる可能性があります。暗号化技術を含む許諾ソフトウェアおよびコンテンツは、輸出入に関する法令、規制または政府による許可・認可の対象となる可能性があり、使用者は、本

製品、許諾ソフトウェアおよびコンテンツに適用のある法令、規制その他の規則及び国際条約を遵守する責任を負います。なお、暗号化技術を含む許諾ソフトウェアおよびコンテンツは、外国政府または政府関係機関による使用を意図していません。

## 完全合意条項、通知、放棄その他

本契約、本製品に関する限定的な保証、弊社のプライバシーポリシーおよびコンテンツサービスに関して提供された追加の利用条件は、本製品、許諾ソフトウェア、コンテンツサービスおよびコンテンツに関する使用者と弊社間の完全なる合意であるものとします。弊社からの本契約に基づくあらゆる通知は、書簡、電子メールまたは弊社のコンテンツサービスを通じて行われます。弊社による本契約上の権利の不行使は、それらの権利を放棄したものとみなされないものとします。万一、本契約の一部が法律により無効となった場合でも、当該条項は本契約の本旨に鑑みて法律により許容される範囲内で強制されるものとし、当該条項以外は有効に存続するものとします。本契約に定めのない事項または本契約の解釈に疑義を生じた場合には、弊社および使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。

## 期間

本契約は、次に従い解除されるまで有効なものとします。弊社は、使用者が本契約に違反した場合、使用者に対する通知をもって、直ちに本契約を解除することができるものとします。その場合、使用者は、速やかに許諾ソフトウェアをそれらの複製を含めて廃棄するものとします。また、解除にあたって、使用者は、弊社、原権利者、第三者プロバイダーに対して、許諾ソフトウェア、コンテンツサービスおよびコンテンツの使用ができなくなることを理由に費用の償還などを求めることはできないものとします。

準拠法、裁判管轄  
本契約の準拠法は、日本国の法律とします。

## 無線技術について

5.15 GHz～5.35 GHz 帯域での操作は、屋内に限られています。

### 本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は 2.4GHz/5GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- 3 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

### 2.4DS/OF4

この無線製品は 2.4 GHz 帯を使用します。変調方式として DS-SS 変調方式および OFDM 変調方式を採用し、与干渉距離は 40 m です。

### 2.4FH1

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として FH-SS 変調方式を採用し、与干渉距離は 10 m です。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

W52	W52	W53	W56
-----	-----	-----	-----

IEEE 802.11a/b/g/n 準拠  
(W52/W53/W56)

## BLUETOOTH 無線技術について

BLUETOOTH 無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ 10 m 程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて 2 つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1 つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によって USB のように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。

BLUETOOTH 標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

## BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したもので。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：

- BLUETOOTH標準規格  
Ver. 3.0

対応BLUETOOTHプロファイル：

- A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。(本機は受信のみ対応)
- AVRCP 1.3 (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

### ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

## 通信有効範囲

見通し距離で約 10 m 以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

## 他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN(IEEE802.11b/g/n)は同一周波数帯(2.4 GHz)を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近傍で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

## 他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

## ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定める BLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

## 電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼つてある証明ラベルをはがすこと

## 取扱説明書について

- 取扱説明書では、リモコンでの操作を説明しています。本体の同じ、または類似した名前のボタンを使っても同様の操作ができます。
- 本書には仮のイラストも含まれているため、実際の製品とは異なる場合があります。
- テレビ画面に表示される項目は、地域によって異なる場合があります。
- 下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

# 目次

安全のために .....	2
使用上のご注意 .....	11
無線技術について .....	16
BLUETOOTH無線技術について .....	16
取扱説明書について .....	18
付属品を確かめる .....	21
各部の名前と働き .....	22

## 接続と設定

手順1:スピーカーを設置する .....	27
手順2:本機をつなぐ .....	31
スピーカーをつなぐ .....	32
テレビをつなぐ .....	32
その他の機器をつなぐ .....	34
アンテナをつなぐ .....	36
手順3:ネットワーク接続の準備 .....	36
手順4:かんたん設定をする ....	38
手順5:再生ソースを選ぶ .....	39
手順6:サラウンド音声効果を楽しむ .....	40

## 再生する

USB 機器を再生する .....	42
BLUETOOTH機器の音楽を楽しむ .....	43
スクリーンミラーリングを使う .....	46
ワンタッチ機能(NFC)でリモート機器に接続する .....	47
「SongPal」を使う .....	50
さまざまなオプション .....	50
デジタル放送用の音声(AAC)を楽しむ .....	52

## チューナー

ラジオを聞く .....	54
--------------	----

## その他の機能

“ブラビアリンク”とは? .....	56
“ブラビアリンク”を使う準備をする .....	56
“ブラビアリンク”を使う .....	57
スピーカーの設定をする .....	59
スリープタイマーを使う .....	61
明るさを変える .....	61
スタンバイ状態時の消費電力をおさえる .....	62

## **設定と調整**

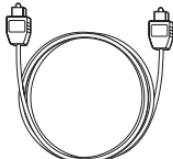
設定メニューを使う .....	62
[ソフトウェアアップ データ] .....	63
[映像設定] .....	63
[音声設定] .....	65
[本体設定] .....	66
[外部入力設定] .....	67
[通信設定] .....	68
[設定初期化] .....	69

## **その他**

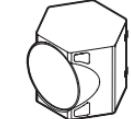
使用上のご注意 .....	69
故障かな？と思ったら .....	71
再生できるファイル .....	77
保証書とアフターサービス .....	79
対応音声フォーマット .....	80
主な仕様 .....	81
索引 .....	84

# 付属品を確かめる

- 取扱説明書（本書）（1）
- かんたんスタートガイド（1）
- 保証書（1）
- 「製品登録」のおすすめ（1）
- リモコン（1）
- 単4形乾電池（2）
- 光デジタルケーブル（1）



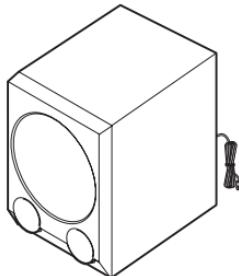
- FMワイヤーアンテナ（1）
- フロントスピーカー（2）



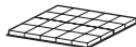
- サラウンドスピーカー（2）
- センタースピーカー（1）



- サブウーファー（1）



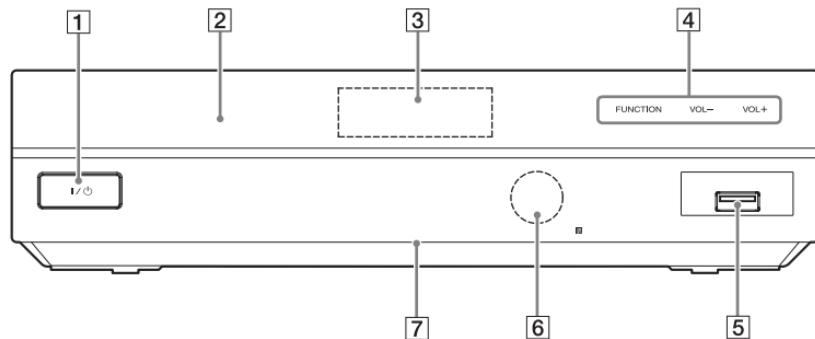
- スピーカーコード  
(4、赤／白／グレー／青)
- フットパッド（1）



# 各部の名前と働き

詳しい説明は（ ）内のページをご覧ください。

## フロントパネル



### ① I/O (電源オン／スタンバイ) ボタン

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

### ② N (N マーク) (47 ページ)

NFC 機能を使うときは、NFC 機能対応機器を N マークに近付けます。

### ③ 表示窓

### ④ ソフトタッチボタン

#### ご注意

- ソフトタッチボタンは軽く触れるだけで操作できます。強く押さないようにしてください。

- ソフトタッチボタンが反応しないときは、ボタンから手を離して数秒間お待ちください。数秒経ってから、ボタンから指が離れないようにして、もう一度ボタンを押してください。

- ボタン操作時に LED が白く点滅します。

### FUNCTION ボタン\* (39 ページ)

再生ソースを選びます。

### VOL +/- ボタン

\* 本機のFUNCTIONを2秒以上押し続けると、内蔵の音声デモンストレーションが再生されます。  
USB機器が接続されているときは、USBの音声コンテンツが音声デモンストレーションとして再生されます。デモンストレーションを停止するときは、■を押します。

#### ご注意

デモンストレーション再生中は、設定されている音量より大きくなることがあります。

#### ⑤ (USB) 端子 (42 ページ)

#### ⑥ (リモコン受光部)

## ⑦ LED表示

白：本機が電源オンのときに点灯。

青（BLUETOOTH状態表示）：

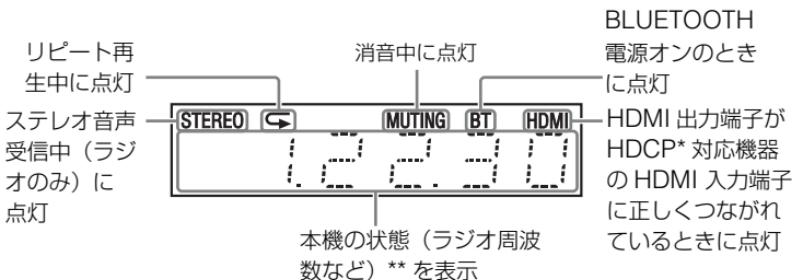
－ペアリング待機中：速く点滅

－ペアリング中：速く点滅

－NFC機器検出：点滅

－接続完了：点灯

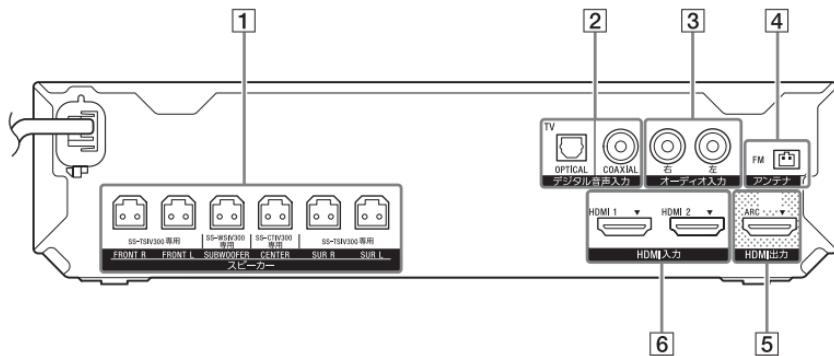
## 表示窓の表示



\* 高帯域幅デジタルコンテンツプロテクション

\*\* 「TV」ファンクションまたは「COAX」ファンクションが設定されているときにリモコンの画面表示ボタンを押すと、ストリーム情報やコーディング状態を表示します。コーディング中の項目やストリームによっては、表示されない場合もあります。

## リアパネル



- [1]** スピーカー 端子 (32 ページ)
- [2]** デジタル音声入力  
(TV OPTICAL) 端子  
(33、34 ページ)
- [3]** オーディオ入力 (左／右) 端子  
(33、34 ページ)
- [4]** アンテナ (FM) 端子  
(36 ページ)
- [5]** HDMI 出力 端子 (32 ページ)
- [6]** 入力 (HDMI 1 ／ HDMI 2)  
端子 (34 ページ)

# リモコン



- 音量 +、音声切換および▶ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

**本機は自動的にスタンバイ状態になります**

本機やリモコンのボタンが 20 分間操作されなかったときは、本機は自動的にスタンバイ状態になります。

## ① TV 電源（オン／スタンバイ）ボタン

テレビの電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

## TV 入力切換ボタン

テレビの入力（テレビまたは他の入力ソース）を切り替えます。

## 電源（オン／スタンバイ）ボタン（38 ページ）

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

## ② スピーカー TV↔AUDIO ボタン

テレビの音声を出力するスピーカー（本機のスピーカーまたはテレビのスピーカー）を切り替えます。この機能は、[HDMI 機器制御] を [入] に設定したときのみ有効です（66 ページ）。

## 画面表示ボタン（43 ページ）

再生情報をテレビ画面に表示します。

ラジオのプリセット番号や放送局の周波数などを表示窓に表示します。

## 本体表示ボタン

表示窓と LED 表示の明るさを調整します。

## スリープボタン（61 ページ）

スリープタイマーを設定します。

## ③ 入力ボタン

使用したい機器を選びます。

## HDMI 1、HDMI 2、TV

#### ④ ファンクションボタン

(39 ページ)

再生ソースを選びます。

機能を選んでいるときに [入力スキップ設定] (67 ページ) を設定すると、使用していない入力をスキップできます。

#### ⑤ サウンドフィールドボタン

「手順 6：サラウンド音声効果を楽しむ」(40 ページ) をご覧ください。

CLEARAUDIO+、ナイトモード、ミュージック、デジタルミュージック、ミュージックアリーナ、映画、ゲーム、サッカー

#### ⑥ カラーボタン

カラーボタンが有効なときに、テレビ画面に操作ガイドを表示します。操作ガイドにしたがって、選んだ操作を実行してください。

青／赤／緑／黄色ボタン

#### ⑦ ミラーリングボタン (46、49 ページ)

「SCR M」ファンクションを選びます。

BLUETOOTH ボタン

(44 ページ)

「BT」ファンクションを選びます。

オプションボタン (41、50 ページ)

テレビ画面または表示窓にオプションメニューを表示します。(選んだ機能によって表示位置が異なります。)

戻るボタン

ひとつ前の画面に戻ります。

◀/▲/▼/▶ ボタン

上下左右に動かして項目を選びます。

⊕(決定) ボタン

選んだ項目を決定します。

#### ⑧ ホームボタン (59、62 ページ)

ホームメニューを表示または閉じます。

#### ⑨ 音量 +/- ボタン

音量を調節します。

音声切換ボタン (53 ページ)

音声フォーマットやトラックを選びます。

消音ボタン

一時的に音声をオフにします。

TV 音量 +/- ボタン

テレビの音量を調節します。

#### ⑩ 再生操作ボタン

「再生する」(42 ページ) をご覧ください。

**◀◀/▶▶ (早送り再生／スロー再生／コマ送り再生) ボタン**

再生中に押すと、早戻し／早送り再生します。押すたびに速さが切り換わります。

一時停止中に1秒以上押すと、スロー再生します。

一時停止中に押すと、コマ送り再生します。

**◀◀/▶▶ (前へ／次へ) ボタン**  
ひとつ前、または次のチャプター、トラックまたはファイルを選びます。

**▶ (再生) ボタン**  
再生を開始、または再開(つづき再生)します。

**■ (一時停止) ボタン**  
再生を一時停止、または再開します。

**■ (停止) ボタン**  
再生を停止すると同時に、停止した位置を記憶します(つづき再生)。再開する位置は、動画／音楽では最後に停止した位置、写真では最後に再生した写真になります。

内蔵デモンストレーションまたはUSB音声デモンストレーションを停止します。

**ラジオ操作ボタン**

「チューナー」(54ページ)をご覧ください。

**プリセット +/- ボタン**  
**FM選局 +/- ボタン**

**接続と設定**

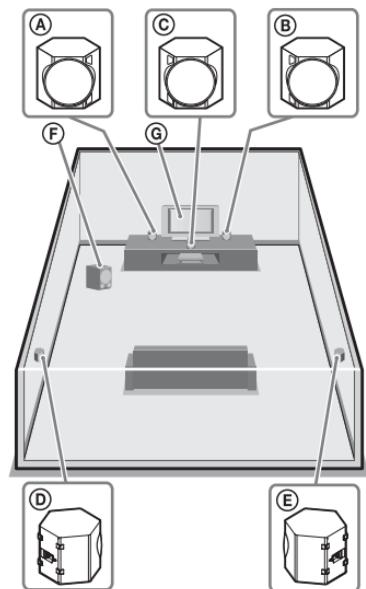
# 手順1：スピーカーを設置する

下記のイラストを参考にスピーカーを設置します。

- Ⓐ フロントスピーカー左 (L)
- Ⓑ フロントスピーカー右 (R)
- Ⓒ センタースピーカー
- Ⓓ サラウンドスピーカー左 (L)
- Ⓔ サラウンドスピーカー右 (R)
- Ⓕ サブウーファー
- Ⓖ テレビ

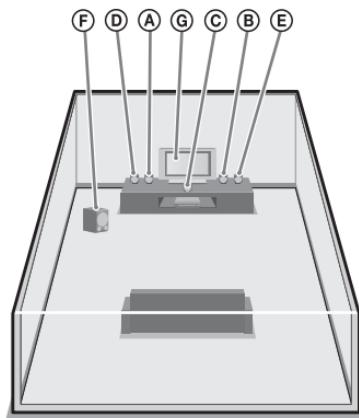
## スピーカーの構成例

サラウンドスピーカーを後方に  
設置する  
(スピーカー配置：  
[スタンダード])

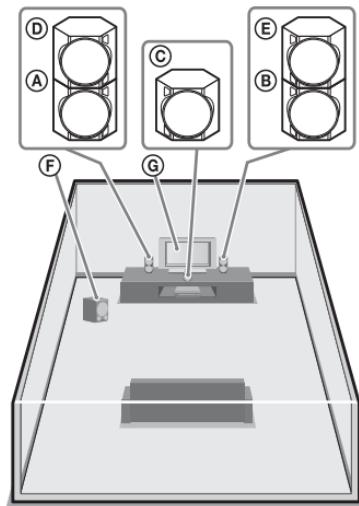


すべてのスピーカーを前に  
配置する  
(スピーカー配置：  
[オールフロント])

例 1：



例 2：

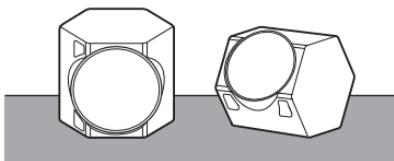


**ご注意**

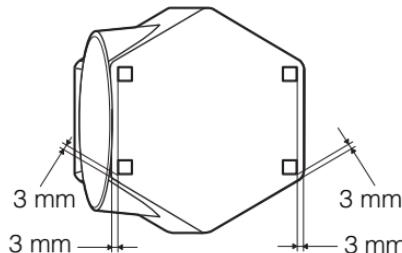
- スピーカー配置を【スタンダード】に設定した場合は、フロントスピーカーとセンタースピーカーに付属のフットパッド(29ページ)を必ず取り付けください。スピーカー配置を【オールフロント】に設定した場合は、フロントスピーカー、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーに付属のフットパッドを必ず取り付けください。
- 実際に設置したスピーカーに合わせて、スピーカー配置の設定(59ページ)をおこなってください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーやスピーカーを取り付けたスピーカースタンドを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。
- スピーカーを傾けたり、スピーカーに寄りかかったりしないでください。倒れることができます。
- 付属のスピーカーは防磁仕様ではありません。ブラウン管テレビやプロジェクターの近くに設置すると、画面に色むらが起きことがあります。

**マルチアンダルスピーカー構成の例**

平面や壁にスピーカーを設置できます(30ページ)。スピーカーの角度を変えて最適な音質をお楽しみいただけます。

**平面にスピーカーを設置する**

フロントスピーカー、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーを設置する前に、下記のイラストのように必ずフットパッドを取り付けてください。振動や衝撃を防ぎ、床の傷を低減します。

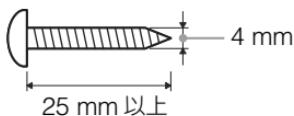
**ご注意**

2つの鏡面いずれにもフットパッドを取り付けることができます。

## 壁にスピーカーを取り付ける

壁にスピーカーを取り付けることができます。

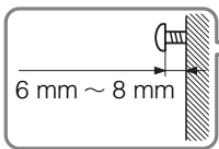
- 1 スピーカー背面の穴に合うネジ（別売）を用意する。下記のイラストをご確認ください。



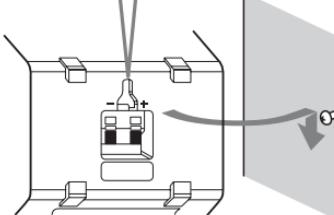
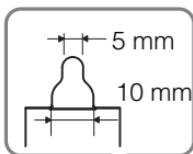
- 2 壁にネジをとめて、スピーカー背面の穴をネジにかける。

角度を固定してスピーカーを設置する

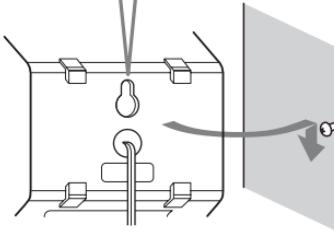
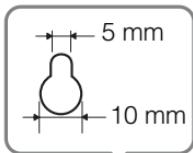
ネジが壁から 6 mm ~ 8 mm 出るようにする



フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの背面の穴

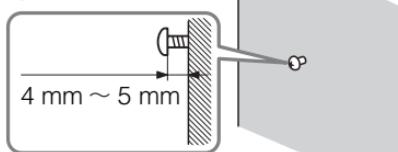


センタースピーカー背面の穴

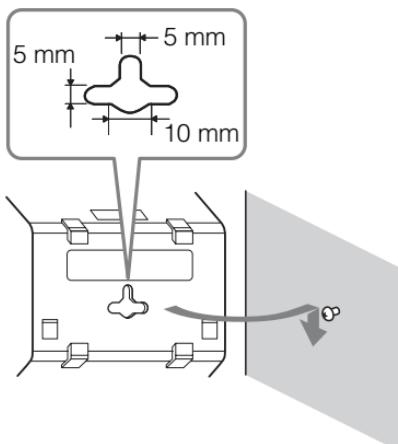


## 角度を調整できるようにスピーカーを設置する

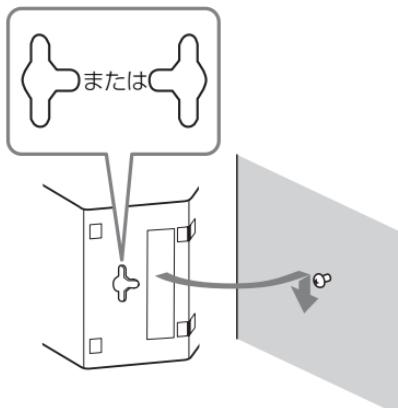
ネジが壁から 4 mm ~ 5 mm 出るようにする



横向きに設置



縦向きに設置



### ご注意

- スピーカーの角度を変えて設置して、最適な音質をお楽しみいただけます(29 ページ)。
- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。特に石膏ボードは壊れやすいため、ネジは柱部分に固定して、壁にしっかりと取り付けてください。スピーカーは垂直で平な補強された壁に取り付けてください。
- 壁の素材や使用するネジについては、販売店や工事店にお問い合わせください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

## 手順 2：本機をつなぐ

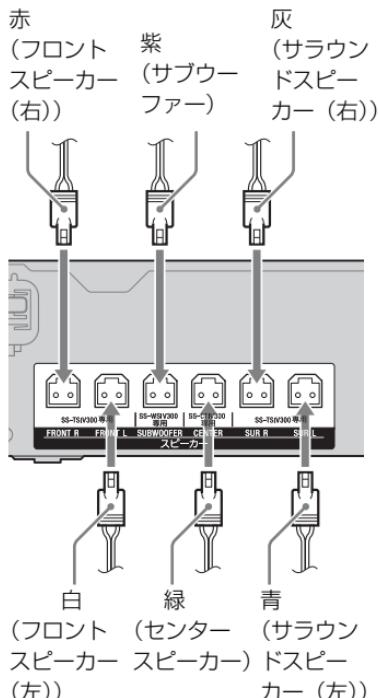
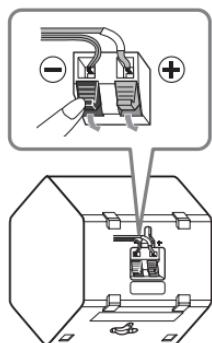
本機の電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。

### ご注意

音量調節ができる機器をつなぐときは、音が歪まない程度に音量を小さくしてください。

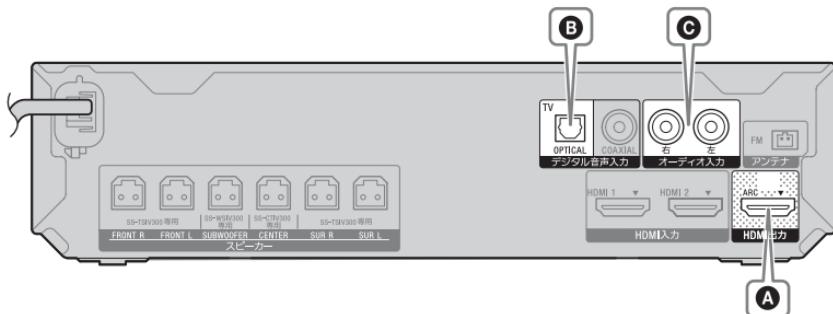
## スピーカーをつなぐ

スピーカーコードの端子と本機のスピーカー端子を、色が合うようにつなぎます。カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。  
スピーカーコードを以下のようにフロントスピーカーとサラウンドスピーカーにつないでください。

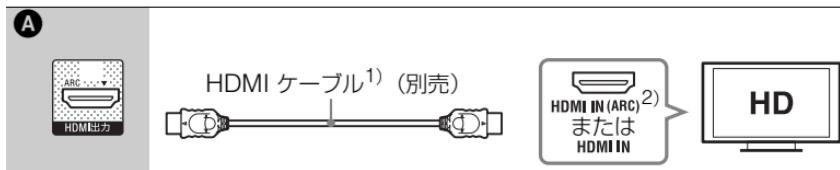


## テレビをつなぐ

お使いのテレビの入力端子をご確認のうえ、つなぎかたを選んでください。



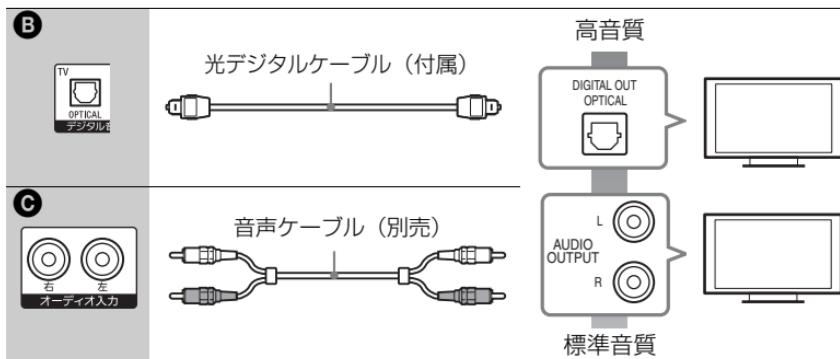
## 映像接続



- 1) ハイスピード HDMI ケーブル
- 2) オーディオリターンチャンネル (ARC) 機能を使うと、B または C の接続をしなくても、HDMI 接続で本機からテレビの音声を出力できます。本機で ARC 機能を設定するには、[オーディオリターンチャンネル (ARC)] (66 ページ) をご覧ください。お使いのテレビが ARC に対応しているかどうかについては、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

## 音声接続

お使いのテレビの HDMI 端子がオーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に対応していないときは、適切な音声接続 (B または C) をおこなうと、本機でテレビの音声を聞くことができます。

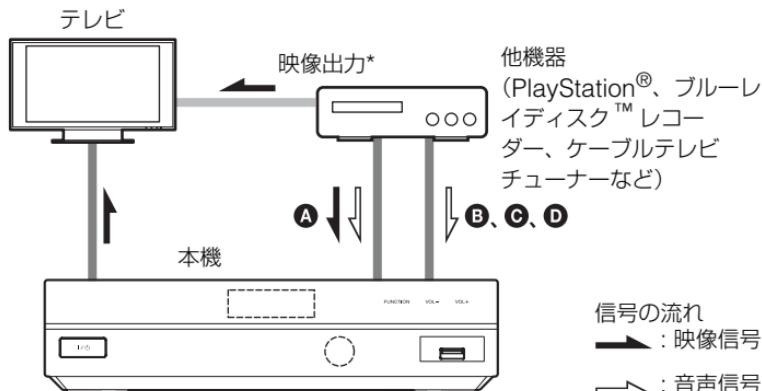


### ご注意

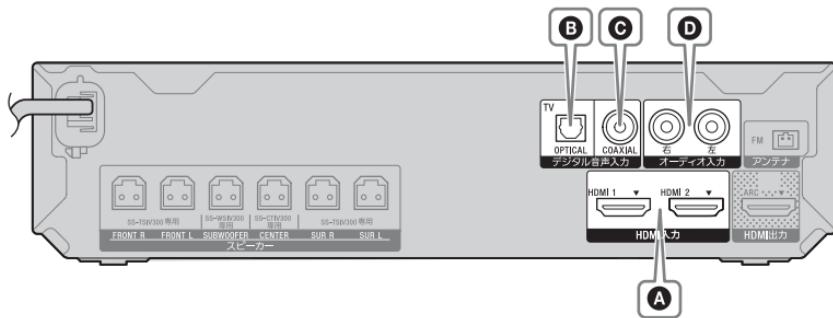
テレビの音声を楽しむには、B の接続の場合は「TV」ファンクションを、C の接続の場合は「AUDIO」ファンクションを選びます。

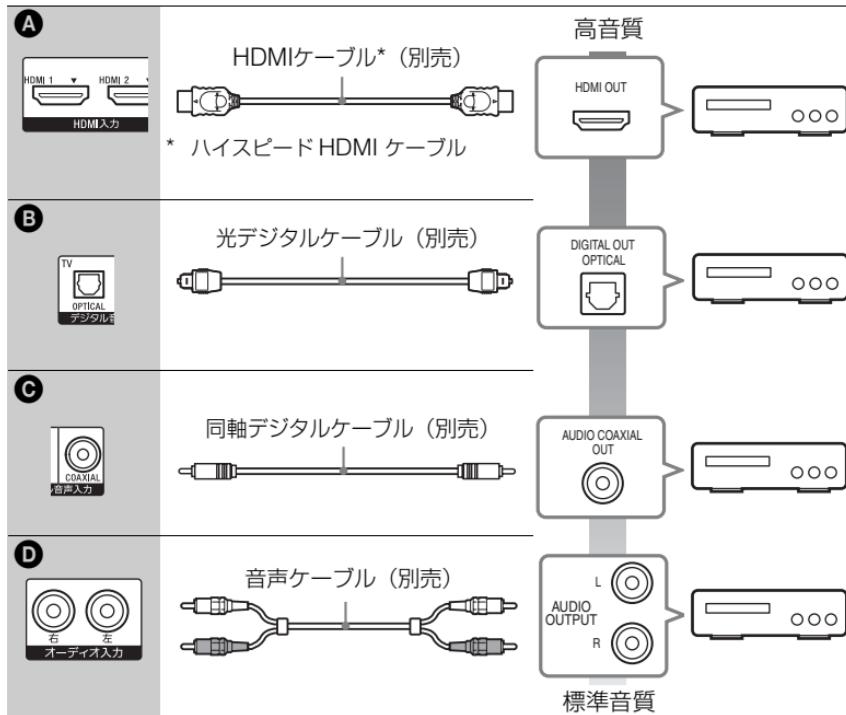
## その他の機器をつなぐ

本機、テレビおよびその他の機器を下記のようにつなぎます。本機の電源がオフまたはスタンバイ状態のときは、つないだ機器の映像と音声を本機経由でテレビで楽しむことができません。



お使いの機器の端子の種類をご確認のうえ、つなぎかたを選んでください。





## A の接続の場合

この接続は、映像信号と音声信号の両方を送信します。

### ご注意

- HDMI 入力 (1 / 2) 端子から HDMI 出力端子へ映像信号を出力するには、「HDMI1」ファンクションまたは「HDMI2」ファンクションを選んでください。
- HDMI 入力 (1 / 2) 端子から HDMI 出力端子へ音声信号を出力するには、音声出力設定の変更が必要な場合があります。詳しくは、[音声設定] の [音声出力] をご覧ください (65 ページ)。

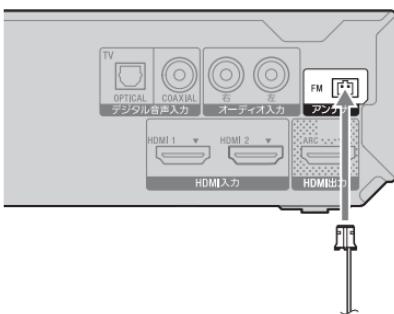
## B の接続、C の接続、または D 接続の場合

本機と他機器の映像信号がテレビに出力され、他機器の音声信号が本機へ出力されるようにつなぎます。

### ご注意

- いずれの接続の場合も、[本体設定] で [HDMI 設定] の [HDMI 機器制御] を [切] に設定してください（66 ページ）。
- 他機器の音声を楽しむには、**B** の接続の場合は「TV」ファンクション、**C** の接続の場合は「COAX」ファンクション、**D** の接続の場合は「AUDIO」ファンクションを選択します。

### アンテナをつなぐ



FM ワイヤーアンテナ  
(付属)

### ご注意

- FM ワイヤーアンテナは、完全に伸ばしてください。
- FM ワイヤーアンテナをつないだあとは、できるだけ水平を保ってください。

## 手順3: ネットワーク接続の準備

本機には Wi-Fi が内蔵されています。ネットワーク設定をして、本機をネットワークにつなぐことができます。

**ネットワーク設定をおこなう前に**  
お使いの無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が WPS 機能に対応している場合、WPS ボタンを使って簡単にネットワーク設定をおこなうことができます。

WPS 機能対応でない場合は、あらかじめ以下の情報を確認し、空欄に記載してください。

•お使いのネットワーク名

(SSID\*)\*\*

- お使いのワイヤレスネットワークにセキュリティが設定されている場合、セキュリティキー(WEPキー、WPAキー)\*\*

\* 特定のワイヤレスネットワークを識別するための名前です。

\*\* SSID とセキュリティキー情報を得るために無線 LAN ルーターの設定を確認する必要があります。詳しくは、

- 以下のホームページをご覧ください。

<http://www.sony.jp/home-theater/>

- 無線 LAN ルーターの取扱説明書をご覧ください。

- 無線 LAN ルーターのメーカーにご相談ください。

## 無線 LAN のセキュリティについて

無線 LAN による通信は、電波を利用しておこなわれるため、通信内容を傍受されるおそれがあります。無線通信を保護するために、本機はさまざまなセキュリティ機能に対応しています。接続環境に応じて正しくセキュリティ対策をしてください。

### ■セキュリティなし

簡単に設定できますが、特別なツールなどを使わずに誰でも無線電波を受信し、ワイヤレスネットワークに侵入できてしまいます。不正アクセスや通信内容の傍受をされるおそれがあります。

### ■WEP

WEP は、通信を暗号化することで、第三者に通信を傍受されたり、ワイヤレスネットワークに侵入されたりするのを防止します。解読法の知られている古いセキュリティ技術のため、TKIP/AES に対応していない機器をつなぐときのみ、お使いください。

### ■WPA-PSK (TKIP)、 WPA2-PSK (TKIP)

TKIP は WEP の脆弱性対策を施したセキュリティ技術です。WEP より高度なセキュリティが実現されます。

### ■WPA-PSK (AES)、 WPA2-PSK (AES)

AES は、WEP と TKIP とは異なる高度な暗号化方式を使ったセキュリティ技術です。WEP や TKIP より高度なセキュリティが実現されます。

# 手順4：かんたん設定をする

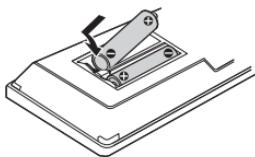
## 手順4をおこなう前に

すべての接続を確実におこなったら、電源コードをつなぎます。

下記の手順にしたがって、本機の基本調整とネットワーク設定をおこなってください。

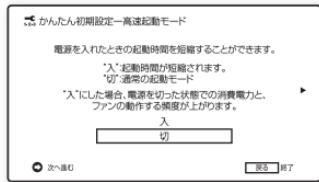
表示される項目は地域によって異なります。

- 1 単4形乾電池2本(付属)の $\oplus$ と $\ominus$ の向きをリモコン内側の表示に合わせて、入れる。

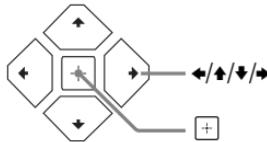


- 2 テレビの電源を入れる。
- 3 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる。

- 4 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。  
[かんたん初期設定] 画面が表示されます。



- 5 [かんたん初期設定] をおこなう。リモコンの $\leftarrow/\uparrow/\downarrow/\rightarrow$ ボタンと $\Box$ ボタンを使って、画面の指示にしたがって基本設定をおこなう。



- 6 [かんたん初期設定] が完了したら、 $\uparrow/\downarrow$ ボタンを押して[かんたんネットワーク設定]を選択、 $\Box$ ボタンを押す。  
[かんたんネットワーク設定] 画面が表示されます。

- 7 リモコンの $\leftarrow/\uparrow/\downarrow/\rightarrow$ ボタンと $\Box$ ボタンを使って、画面の指示にしたがって基本設定をおこなう。  
本機をネットワークに接続できないときは、「ネットワーク接続」(76ページ)をご覧ください。

# 手順 5：再生ソースを選ぶ

**ファンクションボタンを繰り返し押す。**

ファンクションボタンを一度押すと、選ばれているファンクションが表示窓に表示されます。ファンクションボタンを押すたびに、以下のようにファンクションが切り換わります。

「HDMI1」→「HDMI2」→  
 「TV」→「COAX」→  
 「SCR M」→「BT」→  
 「AUDIO」→「USB」→「FM」

## ファンクションと再生ソース

### 「HDMI1」／「HDMI2」

HDMI 入力 (HDMI 1 にまたは HDMI 2) 端子につないだ機器  
 (35 ページ)

### 「TV」

デジタル音声入力 (TV OPTICAL) 端子につないだテレビなどの機器、または HDMI (出力) 端子につないだオーディオリターンチャンネル機能に対応したテレビ (33、34 ページ)

### 「COAX」

デジタル音声入力 (COAXIAL)  
 端子につないだ機器 (35 ページ)

## ファンクションと再生ソース

### 「SCR M」

#### 【スクリーンミラーリング】

スクリーンミラーリング対応機器  
 (46、49 ページ)

### 「BT」

#### 【Bluetooth AUDIO】

A2DP 対応の BLUETOOTH 機器

### 「AUDIO」

オーディオ入力 (左／右) 端子につないだ機器 (33、34 ページ)

### 「USB」

♪(USB) 端子につないだ USB 機器 (22 ページ)

### 「FM」

FM ラジオ (54 ページ)

## ちょっと一言

- ファンクションによっては、テレビ画面を見ながら、ファンクションボタン、▲/▼ ボタン、田ボタンで切り換えることができます。
- BLUETOOTH ボタンを押して「BT」ファンクションを選んだり、ミラーリングボタンを押して「SCR M」ファンクションを選んだりすることもできます。

# 手順 6：サラウンド音声効果を楽しむ

ここまで手順を終えて再生を開始すると、さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンドフィールド（音場）を選ぶことができます。ご自宅で臨場感のある音声をお楽しみいただけます。

## ご注意

サウンドフィールドは、[サウンドエフェクト] が [サウンドフィールド入] に設定されているときに選べます（65 ページ）。[サウンドエフェクト] が [サウンドフィールド入] 以外に設定されていると、サウンドフィールド設定が無効になります。

## サウンドフィールドを選ぶ

再生中にお好みのサウンドフィールドボタンを押す。

### [ClearAudio+]

再生コンテンツやファンクションに応じて、ソニーがおすすめするサウンドフィールドを自動で選びます。

• 2 チャンネル音声のとき：5.1 チャンネルサラウンドにシミュレートして出力します。

• マルチチャンネル音のとき：記録されたフォーマットで出力します。

### [映画]

映画鑑賞に最適化された音声を出力します。

### [ミュージック]

音楽鑑賞に最適化された音声を出力します。

### [デジタルミュージック]

デジタルミュージックエンハンサー

圧縮音声をよりクリア、よりダイナミックな音声にします。また音声レベルを均一化します。

### [ゲーム]

ビデオゲームに最適化された音声を出力します。

### [ナイトモード]

夜遅くなど、音量を下げて映画を鑑賞するときでも、台詞を明瞭に聞き取れるようにします。

**ちょっと一言**

2 チャンネル音声をマルチチャンネルで楽しみたいときには [ClearAudio+] をおすすめします。

## オプションメニューからサウンドフィールドを選ぶには

- 1 オプションボタンと **▲/▼** ボタンを押して、[サウンドフィールド] を選び、**□** ボタンを押す。
- 2 **▲/▼** ボタンを押してサウンドフィールドを選び、**□** ボタンを押す。

## デジタルミュージックアリーナを選ぶ

ミュージックアリーナボタンを繰り返し押して、[ミュージックアリーナ：入] を選ぶ。ソニー独自のオーディオ DSP 技術によって、ライブミュージックコンサートながらの臨場感をお楽しみいただけます。

**ご注意**

下記の操作をおこなうと、デジタルミュージックアリーナモードは自動的に [ミュージックアリーナ：切] に設定されます。

- ー 本機の電源を切る
- ー いずれかのサウンドフィールドボタンを押す（26 ページ）

**ちょっと一言**

オプションメニューからデジタルミュージックアリーナモードを選ぶこともできます。

## サッカーモードを選ぶ

**サッカー放送中にサッカーボタンを繰り返し押す。**

サッカースタジアムの観客席で観戦しているかのような臨場感を味わえます。

- [サッカーモード：ナレーション 入] : サッカースタジアムの歓声を強調することで、観客席で観戦しているかのような気分を味わえます。
- [サッカーモード：ナレーション 切] : ナレーションの音量をしぼって歓声を強めることで、よりサッカー観戦への没入感を高めます。
- [サッカーモード：切] : サッカーモードが解除されます。

**ご注意**

- サッカーモードは、サッカー試合中をご使用いただくことをおすすめします。
- [サッカーモード：ナレーション 切] を選んでいて音声に違和感があるときは、[サッカーモード：ナレーション 入] をおすすめします。
- 下記の操作をおこなうと、サッカーモードは自動的に [サッカーモード：切] に設定されます。
  - ー 本機の電源を切る
  - ー いずれかのサウンドフィールドボタンを押す（26 ページ）
- モノラル音声には対応していません。

## ちょっと一言

- オプションメニューからサッカーモードを選ぶこともできます。
- 5.1 チャンネルオーディオストリームが選べる場合は、テレビ側またはセットトップボックス側で 5.1 チャンネル音声を選ぶことをおすすめします。

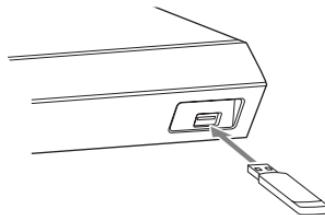
## 再生する

# USB 機器を再生する

USB 機器の映像、音楽、写真ファイルを再生することができます。再生可能なファイルについては、「再生できるファイル」(77 ページ)をご覧ください。

## 1 (USB) 端子に USB 機器をつなぐ。

つなぐ前に USB 機器の取扱説明書をご覧ください。



## 2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

## 3 ボタンを押して、 [ビデオ]、 [ミュージック] または [フォト] を選ぶ。

## 4 ボタンを押して、 [USB 機器] を選ぶ。

## 5 ボタンを押して好みの項目を選び、 ボタンを押す。

### ご注意

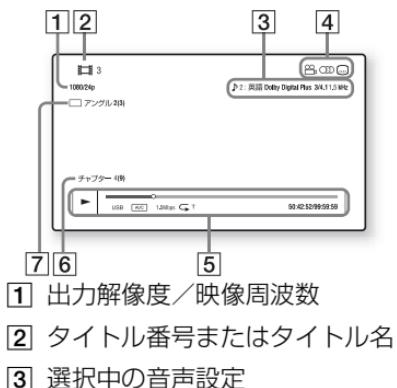
操作中に USB 機器を取り外さないでください。USB 機器を本機につないだり取り外したりするときは、データを失ったり USB 機器の故障を避けるために、必ず本機の電源を切ってください。

## 再生情報をテレビ画面に表示する

画面表示ボタンを押すと、テレビ画面に再生情報などを表示することができます。

メディアの種類や本機の状態によって、表示される情報は異なります。

例：USB 機器の再生の場合



**④** 使用可能な機能 ( アングル、 音声、 字幕)

**⑤** 再生情報

再生モード／再生位置表示バー／メディアの種類／ビデオコードック／ビットレート／リピート設定／経過時間／総再生時間を表示する

**⑥** チャプター番号

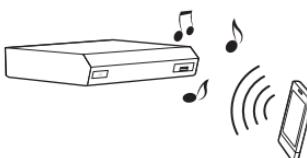
**⑦** 設定中のアングル

## BLUETOOTH 機器の音楽を楽しむ

## BLUETOOTH 無線技術について

BLUETOOTH 無線技術は、デジタル機器同士で通信をおこなうための近距離無線技術です。

BLUETOOTH 無線技術で、およそ 10 m 以内の範囲で通信をおこなうことができます。



## **BLUETOOTH 機能の対応バージョンとプロファイル**

プロファイルとは、BLUETOOTH 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。BLUETOOTH 機能の対応バージョンおよびプロファイルについては、「BLUETOOTH 部」(82 ページ) をご覧ください。

### **ご注意**

- BLUETOOTH 機器の仕様によっては、本機と同じプロファイルに対応していても、機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH 無線技術の特性により、BLUETOOTH 側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

## **本機と BLUETOOTH 機器をペアリングする**

ペアリングとは、接続する BLUETOOTH 機器同士をあらかじめ登録することです。一度ペアリングをおこなうと、次回以降はペアリングをおこなう必要はありません。

**1 本機と BLUETOOTH 機器を 1 m 以内に置く。**

**2 BLUETOOTH ボタンを押す。**

ホームメニューの  [外部入力] から、 [Bluetooth AUDIO] を選ぶこともできます。

**3 BLUETOOTH 機器をペアリングモードにする。**

BLUETOOTH 機器をペアリングモードにする方法について詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

**4 つなぐ機器の画面上で、本機の名前（例：「HT-IV300」）を選ぶ。**

ペアリングが完了すると、機器は自動的に本機に接続し、テレビ画面および本機の表示窓に機器名が表示されます。5 分以内に選ばなかったときは、ペアリングモードが解除されます。

### **ご注意**

本機は9台までのBLUETOOTH 機器を登録することができます。10台目のBLUETOOTH機器がペアリングされると、1台目の機器が上書きされます。

**5 BLUETOOTH 機器を操作して再生を開始する。**

**6 音量を調節する。**

BLUETOOTH 機器側で音量を調節して音量が小さいときは、本機側で音量調節します。

**ペアリング操作をやめるには**  
ホームボタンまたはファンクションボタンを押す。

## 本機から BLUETOOTH 機器につなぐ

本機から BLUETOOTH 機器へ接続することができます。

操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

- 相手側の BLUETOOTH 機器の BLUETOOTH 機能が有効になっている。
- ペアリングが完了している（44 ページ）。

### 1 BLUETOOTH ボタンを押す。

#### ご注意

一番新しく登録した BLUETOOTH 機器に接続するには、▶ ボタンを押して手順 5 へ進んでください。

### 2 オプションボタンを押す。

### 3 [機器リスト] を選び、+ ボタンを押す。

BLUETOOTH 機器リストが表示されます。

### 4 ↑/↓ ボタンを繰り返し押して好みの機器を選び、+ ボタンを押す。

### 5 ▶ ボタンを押して再生を開始する。

## 6 音量を調節する。

BLUETOOTH 機器側で音量を調節して音量が小さいときは、本機側で音量調節します。

#### ご注意

- BLUETOOTH 機器は、本機と接続すると、本機の ▶、II、■、◀◀/▶▶ や ▶◀/▶▶ ボタンで再生操作ができます。
- [外部入力設定] で [Bluetooth 電源設定] を [入] に設定すると（68 ページ）、「BT」ファンクション以外のファンクションで、ペアリングした BLUETOOTH 機器から本機につなぐことができます。

#### ちょっと一言

BLUETOOTH 機器から AAC 音声の受信を有効にしたり無効にしたりできます（67 ページ）。

## BLUETOOTH 機器の接続を解除するには

ホームボタン、ファンクションボタンまたは戻るボタンを押します。

## ペアリングした BLUETOOTH 機器を機器リストから削除するには

1 上記の手順 1 から 3 をおこなう。

2 ↑/↓ ボタンを繰り返し押して機器を選び、オプションボタンを押す。

3 ↑/↓ ボタンを繰り返し押して [削除] を選び、+ ボタンを押す。

- 4  ボタンを繰り返し押して  
[はい] を選び、ボタンを押す。

## スクリーンミラーリングを使う

「スクリーンミラーリング」とは、Miracast 技術を使って、モバイル機器の画面をテレビに表示する機能です。

本機を直接スクリーンミラーリング対応機器（スマートフォンやタブレットなど）とつなぐことができます。お使いの機器の画面をテレビの大画面でお楽しみいただけます。この機能には無線ルーター（またはアクセスポイント）は不要です。

**対応 Xperia スマートフォン**  
スクリーンミラーリング機能搭載  
の Xperia

### ご注意

- スクリーンミラーリングを使用する場合、他の無線通信からの干渉によって画質や音質が劣化する場合があります。
- スクリーンミラーリング中は、ネットワーク機能が使えない場合があります。
- お使いの機器が Miracast に対応していることをご確認ください。あらゆる Miracast 対応機器との互換性を保証するものではありません。

### ちょっと一言

ワントッチミラーリング機能(NFC)を使って(49ページ)、ワイヤレスで Xperia スマートフォンの画面全体をテレビの大画面にミラーリングすることもできます。

- 1 ミラーリングボタンを押す。
- 2 画面の指示にしたがう。  
お使いの機器でスクリーンミラーリングを有効にします。  
機能を有効にする方法について詳しく述べ、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

# ワンタッチ機能 (NFC) で リモート機器に 接続する

## NFC とは

携帯電話や IC タグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信をおこなうための技術です。NFC 機能搭載機器の **N** (N マーク) に「タッチする」だけで、簡単にデータ通信ができます。



### ご注意

- 本機は、一度に 1 台の NFC 対応機器を認識してつなぐことができます。
- お使いのリモート機器によっては、リモート機器側で前もって NFC 機能をオンにする必要があります。詳しくは、リモート機器の取扱説明書をご覧ください。
- NFC 機能を使うには、必ず [NFC] を [入] (66 ページ) に設定してください。

## ワンタッチリスニング 機能 (NFC) でリモート 機器に接続する

NFC 対応リモート機器を本機の N マークに近付けると、本機とリモート機器がペアリングをおこない、自動的に BLUETOOTH 接続をします。

### 対応リモート機器

NFC 機能搭載のスマートフォン (OS : Android 2.3.3 ~ 4.x.x、ただし Android 3.x はのぞく)

## 1 「NFC 簡単接続」アプリケーションをダウンロードしてインストールする。

「NFC 簡単接続」は Android リモート機器用の無料アプリケーションで、Google Play で入手できます。サイトで「NFC 簡単接続」とタイプして検索するか、下記の二次元コードを読み取って直接ダウンロードサイトにアクセスします。

「NFC 簡単接続」は無料ですが、ダウンロードの際に別途データ通信料が発生しますので、ご了承ください。

## サイトへ直接アクセスできる二次元コード\*

- \* 二次元コード読み取り用のアプリケーションをお使いください。



## 2 リモート機器で「NFC 簡単接続」アプリケーションを起動する。

アプリケーション画面が表示されていることをご確認ください。

## 3 本機の N マークにリモート機器を近付けて（47 ページ）、リモート機器が振動するまでタッチし続ける。

リモート機器が本機に認識されると、振動の合図があります。

リモート機器の画面の指示にしたがって、BLUETOOTH 接続を完了してください。

BLUETOOTH 接続が確立すると、本機の表示窓の LED 表示（青色）が点灯します。

### ご注意

リモート機器によっては、「NFC 簡単接続」をダウンロードしなくてもこの機能を使うことができる場合があります。その場合は、リモート機器の操作や仕様がこの取扱説明書に書かれている内容とは異なる場合があります。

### ちょっと一言

ペアリングや BLUETOOTH 接続がうまくいかないときは、次のことをおこなってください。

- 「NFC 簡単接続」を再起動して、リモート機器を本機の N マークの上でゆっくりと動かす。
- リモート機器にケースを付けている場合は、ケースを外す。

## 音楽を聞くには

リモート機器で音源を再生します。再生操作について詳しくは、リモート機器の取扱説明書をご覧ください。

### ちょっと一言

音量が小さいときは、まずはリモート機器側で音量を調節します。それでも音量が小さいときは、本機で音量を調節します。

## 再生を止める

以下の方法で再生を止めることができます。

- 本機の N マークにリモート機器を近付ける。
- リモート機器の音楽再生を停止する。
- 本機カリモート機器の電源を切る。
- 本機のファンクションを切り換える。
- リモート機器で BLUETOOTH 機能を無効にする。

## ワンタッチミラーリング機能（NFC）を使って Xperia スマートフォンに接続する

ワンタッチミラーリング対応の Xperia を本機の N マークに近付けると、ワイヤレスで Xperia スマートフォンの画面全体をテレビの大画面にミラーリングできます。家族や友達とビデオ鑑賞や画面閲覧ができます。この機能には無線ルーター（またはアクセスポイント）は不要です。

**対応 Xperia スマートフォン**  
ワンタッチミラーリング機能搭載の Xperia

- 1** ミラーリングボタンを押す。
- 2** 本機の N マークに Xperia スマートフォンを近付けて（47 ページ）、Xperia スマートフォンが振動するまでタッチし続ける。

Xperia スマートフォンが本機に認識されると、振動の合図があります。

本機と Xperia スマートフォンの接続が確立します。

- 3** 接続が確立すると、テレビ画面に Xperia スマートフォンの画面が表示される。

Xperia スマートフォンが本機に登録されます。

### ミラーリングをやめるには

ホームボタン、戻るボタンまたはファンクションボタンを押します。

#### ご注意

- ミラーリング中は他のネットワークには接続できません。
- 他のネットワークからの影響によって画質や音質が低下する場合があります。

#### ちょっと一言

ミラーリング中にサウンドフィールドを選ぶことができます。お好みのサウンドフィールドボタンを押します（41 ページ）。



# 「SongPal」 を使う

SongPalは、ソニーのワイヤレスオーディオ機器に対応したモバイルアプリケーションです。

BLUETOOTH® 無線技術もしくはWi-Fiで接続し、オーディオ機器内の音楽コンテンツをブラウジングしたり、設定などを行うことができます。(本機とはWi-Fiで接続)

- USB、FM、スマートフォンなどの音楽コンテンツを選択し、再生させたり、ファンクションを切り替えたりすることができます。
- オーディオ機器のサウンド設定などができます。

「SongPal」アプリについてApp StoreおよびGoogle Play™で入手できる、iOSおよびAndroid®専用アプリケーションです。

より詳しい機能について知りたいときは、「SongPal」と検索して、無料のアプリをダウンロードしてください。

## ご注意

この機能を使うには、ソフトウェアをアップグレードしてください(63ページ)。

# さまざまなオプション

オプションボタンを押すと、さまざまな設定や再生中の操作ができます。表示されるオプションは、使用状況によって異なります。

## 共通オプション

項目	できること
【サウンド フィールド】	サウンドフィールドの設定を切り替えます(40ページ)。
【ミュージック クリーナ】	デジタルミュージッククリーナモードのオン／オフを切り替えます(41ページ)。
【サッカー モード】	サッカーモードのオン／オフを切り替えます(41ページ)。
【リピート設 定】	リピートモードを設定します。
【再生 / 再生停 止】	再生を開始または停止します。
【はじめから 再生】	タイトルを始めから再生します。
【カテゴリー 切換】	「USB」ファンクションのときに、[ビデオ]、[ミュージック]および[フォト]を切り替えます。この機能は該当するコンテンツがある場合のみ働きます。

## ■ [ビデオ] のみ

項目	できること
[画音同期調整]	映像と音声とのずれを補正します (52 ページ)。
[画質設定]	<p>[画質モード] : 画像設定を選びます ([ダイレクト]、[明るい部屋]、[暗い部屋]、[自動]、[カスタム1] および [カスタム2])。</p> <p>以下の画像設定をお好みにカスタマイズして、[カスタム1] / [カスタム2] 設定に保存できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [質感調整] : エッジの先鋒度とディテールを調整します。</li> <li>• [超解像] : 解像感を向上させます。</li> <li>• [スマージング] : 平坦部の階調 (表現) をなめらかにすることによって、画面上の擬似輪郭を低減します。</li> <li>• [コントラストリマスター] : 黒レベルと白レベルを自動的に整え、黒浮きしない、めりはりのある画像にします。</li> <li>• [クリアブラック] : 画像の黒い部分の表現を調整します。全体の陰影を損なうことなく、艶やかな黒を演出できます。</li> </ul>
[再生一時停止]	再生を一時停止します。

項目	できること
[トップメニュー]	AVCHD のトップメニューを表示します。
[タイトルサーチ]	AVCHD のタイトルを検索して頭出し再生します。
[チャプターサーチ]	AVCHD のチャプターを検索して頭出し再生します。
[音声切換]	音声フォーマットやトラックを選びます。
[字幕切換]	映像に字幕が複数の言語で記録されている場合、適切な言語を選びます。
[映像切換]	複数のアングルから映像が記録されている場合、アングルを切り替えます。

## ■ [ミュージック] のみ

項目	できること
[スライドショーのBGM登録]	USB メモリーに保存されている音楽ファイルを、スライドショーの BGM に登録します。

## ■ [フォト] のみ

項目	できること
[スライドショー]	スライドショーを再生します。
[スライドショーの速さ]	スライドショーの速度を切り替えます。
[スライドショーの効果]	スライドショーを再生するときの効果を設定します。

項目	できること
[スライド ショーの BGM]	<ul style="list-style-type: none"> <li>•[切]：機能をオフにします。</li> <li>•[My Music (USB)]：[スライドショーのBGM登録]に登録されている音楽ファイルをBGMに設定します。</li> </ul>
[表示切換]	[グリッド表示]と[リスト表示]を切り替えます。
[回転 (左)]	写真を反時計回りに90度回転させます。
[回転 (右)]	写真を時計回りに90度回転させます。
[表示]	選んだ写真を表示します。

## 音声と映像のずれを調整する

### (画音同期調整)

音声と映像の出力がずれることがあります。下記のファンクションの場合は、ずれを調整できます。選んでいるファンクションによって設定方法が異なります。

#### 「HDMI1」、「HDMI2」または「USB」ファンクションの場合

##### 1 オプションボタンを押す。

テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

##### 2 ↑/↓ ボタンを押して [画音同期調整] を選び、+ボタンを押す。

##### 3 ←/→ ボタンを押してずれを調整し、+ボタンを押す。

0 ms から 300 ms の間で 25 ms きざみで調整できます。

#### 「TV」、「COAX」ファンクションの場合

##### 1 オプションボタンを押す。

表示窓に「AV.SYNC」が表示されます。

##### 2 +ボタンまたは → ボタンを押す。

##### 3 ↑/↓ ボタンを押してずれを調整し、+ボタンを押す。

0 ms から 300 ms の間で 25 ms きざみで調整できます。

##### 4 オプションボタンを押す。

表示窓からオプションメニュー画面が消えます。

## デジタル放送用の音声 (AAC) を楽しむ

AAC とは、BS デジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。AAC は 5.1ch のサラウンド放送や 2ヶ国語放送にも対応しています。

BS デジタル放送などの AAC 音声を聞くには、光デジタルケーブル（別売）を使って、本機をデジタルチューナー搭載機器につなぎます。お使いのテレビの HDMI 端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能（33ページ）に対応している場合は、HDMI ケーブルを使って AAC 音声を聞くことができます。テレビなどのデジタルチューナー搭載機器でも「光デジタル音声出力設定」などの設定をおこなう必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子から AAC 音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

**ご注意**

音声ケーブル（アナログ）（別売）を使った 33 ページの接続では、AAC 5.1ch サラウンド放送や多重放送信号はお楽しみいただけません。

- ・「MAIN」（主音声）  
主音声のみを再生します。
- ・「SUB」（副音声）  
副音声のみを再生します。
- ・「MAIN + SUB」（主+副）  
主音声と副音声が合成された音声を再生します。

**ご注意**

2ヶ国語放送でない場合に音声切換ボタンを押すと、本体表示窓に「NOT USE」が表示されます。

## 2ヶ国語放送の音声を切り換える

AAC が 2ヶ国語放送の場合、主音声と副音声を切り換えることができます。

### 音声切換ボタンを押す。

音声切換ボタンを繰り返し押して、本体表示窓にお好みの設定を表示させます。（お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。）

## チューナー

# ラジオを聞く

**1** ファンクションボタンを繰り返し押して、表示窓に「FM」を表示させる。

**2** 放送局を選ぶ。

### 自動選局

自動選局が始まるまで、FM選局 +/- ボタンを長押しします。テレビ画面に【オートチューニング中です。】が表示されます。放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。

自動選局をやめる場合は、リモコンのいずれかのボタンを押します。

### 手動選局

FM選局 +/- ボタンを繰り返し押します。

**3** 音量 +/- ボタンを繰り返し押して、音量を調整する。

### FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

**1** オプションボタンを押す。テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

**2** ↑/↓ ボタンを押して【FMモード】を選び、⊕ボタンを押す。

**3** ↑/↓ ボタンを押して【モノラル】を選び、⊕ボタンを押す。

- 【ステレオ】：ステレオ受信します。
- 【モノラル】：モノラル受信します。

#### ちょっと一言

【FMモード】は、登録した放送局それぞれに対して個別に設定できます。

## 放送局を登録する

FM局を20局登録できます。受信を始める前に、音量を最小にしてください。

**1** ファンクションボタンを繰り返し押して、表示窓に「FM」を表示させる。

**2** 自動選局が始まるまで、FM選局 +/- ボタンを長押しする。

放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。

### 3 オプションボタンを押す。

テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

### 4 ↑/↓ ボタンを押して【プリセットメモリー】を選び、 ⊕ボタンを押す。

### 5 ↑/↓ ボタンを押してプリセッタ番号を選び、⊕ボタンを押す。

### 6 手順2～5を繰り返して、他の放送局を登録する。

#### プリセット番号を変えるには

プリセット +/- ボタンを押してお好みのプリセット番号を選んで、手順3からの操作をします。

#### 登録した放送局を選ぶには

##### 1 ファンクションボタンを繰り返し押して、表示窓に「FM」を表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

##### 2 プリセット +/- ボタンを繰り返し押して、登録したお好みの放送局を選ぶ。

#### ちょっと一言

画面表示ボタンを押すと、表示窓の表示が以下のように変わります。  
周波数 → プリセット番号 → デコードィング状態\*

\* [サウンドエフェクト] が [Dolby Pro Logic]、[DTS Neo:6 Cinema] または [DTS Neo:6 Music] に設定されているときに表示されます(65ページ)。

## その他の機能

# “ブラビアリンク” とは？

HDMI 機器制御機能に対応している製品を HDMI ケーブルでつなぐと、下記のような機能を使って操作を簡単におこなうことができます。

- 電源オフ連動（57 ページ）
- システムオーディオコントロール（58 ページ）
- ワンタッチプレイ（58 ページ）
- オーディオリターンチャンネル（ARC）（58 ページ）
- オートジャンルセレクター（59 ページ）

### ご注意

- 上記の機能は、他社製品との間でも操作ができる場合がありますが、その動作についての保証はいたしかねます。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI 機器制御機能が働かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

## “ブラビアリンク” を使う準備をする

“ブラビアリンク” 対応機器を HDMI ケーブルでつないで、つないだ機器の設定をテレビ側でおこなうと、複数のつないだ機器を一つのリモコンで簡単に操作をすることができます。

“ブラビアリンク” を使うには、つないだ機器の HDMI 機器制御機能を「入」に設定します。HDMI 機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビの HDMI 機器制御機能の設定をおこなうと、本機やつないだ機器の HDMI 機器制御機能も連動して設定されます。

HDMI 機器制御は、CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

**1** 本機とテレビやその他の機器が HDMI ケーブルでつながれていることを確認する。

**2** 本機とテレビ、つないだ機器の電源を入れる。

**3** 本機の映像がテレビに映るように、テレビの HDMI 入力を切り換える。

**4** HDMI 機器リストを表示し、つないだ機器で HDMI 機器制御機能を有効にする。

本機とつないだ機器側の HDMI 機器制御機能が自動的に「入」に設定されます。設定が完了すると、表示窓に「DONE」が表示されます。

#### ご注意

- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 上記の設定がうまくできないときは、[HDMI 機器制御] 設定を手動でおこなえます。[HDMI 設定] をご覧ください（66 ページ）。

# “ブラビアリンク”を使う

## 電源オフ連動

テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切ることができます。

## 電源オンについて

前回、本機で音声を出していた場合は、テレビの電源を入れると本機の電源も自動的にになります。他のつないだ機器の電源を入れるには、個別に操作する必要があります。

テレビのホームメニューから操作できる場合もあります。

#### ご注意

- 本機で音楽再生中または「FM」ファンクションを選んでいるときは、本機の電源は自動的には切れません。
- つないだ機器の状態によっては、その機器の電源を切ることができない場合があります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

## システムオーディオコントロール

簡単な操作で、テレビや他のつないだ機器の音声を本機でお楽しみいただけます。

システムオーディオコントロールは以下のように働きます。

- 本機の電源を入れると、テレビや他機器の音声は自動的に本機から出力されます。
- テレビや他機器の音声を本機で再生しているときに、スピーカー TV↔AUDIOボタンを押すと、テレビのスピーカーから音声を出力します。
- テレビや他機器の音声を本機で再生しているときは、テレビ側の操作で本機の音量を調節したり電源を切ったりすることができます。

### ちょっと一言

テレビによっては、テレビ画面に本機の音量を示す数字が表示されます。テレビ画面に表示される数字と、本機の表示窓の数字が異なることがあります。

## ワンタッチプレイ

HDMI ケーブル経由で他機器を再生しているときは、つないだテレビの電源が自動的に入り、テレビの入力が本機に切り換わります。

つないだ機器でワンタッチプレイをおこなうと、本機の電源が自動的に入り、ファンクションが「HDMI1」または「HDMI2」(ワンタッチプレイをおこなった機器が接続されている方)に設定され、テレビ入力が自動的に本機がつながれている HDMI 入力に設定されます。

### ご注意

- 機器によっては上記の機能が働かないことがあります。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI 機器制御機能が正しく働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

## オーディオリターンチャネル (ARC)

HDMI ケーブル 1 本だけで本機経由でテレビの音声をお楽しみいただけます。

詳しくは、[オーディオリターンチャネル (ARC)] をご覧ください (66 ページ)。

## オートジャンルセレクター

オートジャンルセレクター機能を使うと、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（お使いのテレビやHDMI入力（HDMI1／HDMI2）端子につないだ機器がオートジャンルセレクター機能に対応している場合のみ）。

下記が設定がされているかご確認ください。

- [HDMI 設定] の [HDMI 機器制御] が [入] に設定されている（66 ページ）。
- [音声設定] の [オートジャンルセレクター] が [入] に設定されている（66 ページ）。
- [音声設定] の [サウンドエフェクト] が [サウンドフィールド入] に設定されている（65 ページ）。
- [サウンドフィールド] が ClearAudio+ に設定されている。

### ご注意

CLEARAUDIO+ ボタンを押して [サウンドフィールド] を設定できます。

## スピーカーの設定をする

### 【スピーカー設定】

サラウンド音声を充分に楽しむために、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。

- 1 ホームボタンを押す。**  
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2  $\leftrightarrow$  ボタンを押して、 [設定] を選ぶ。**
- 3  $\uparrow/\downarrow$  ボタンを押して [音声設定] を選び、 $\square$  ボタンを押す。**
- 4  $\uparrow/\downarrow$  ボタンを押して [スピーカー設定] を選び、 $\square$  ボタンを押す。**  
[ 実際に設置したスピーカーの配置を選んでください。 ] 画面が表示されます。
- 5  $\uparrow/\downarrow$  ボタンを押して、スピーカーの配置に応じて設定項目を選び、 $\square$  ボタンを押す。**
  - [スタンダード]：後方にサラウンドスピーカーが設置されているときには選びます。

- [オールフロント]：すべてのスピーカーが前方に配置されているときに選びます。

#### ご注意

スピーカー配置の設定を変えると、すべての設定がお買い上げ時の設定にリセットされます。

- 6  $\blacktriangleleft/\triangleright$  ボタンを押して設定項目を選び、 $\square$  ボタンを押す。
- 7  $\square$  ボタンまたは $\blacktriangleleft/\blacktriangleup/\blacktriangledown/\triangleright$  ボタンを押して設定を調節する。
- 8  $\square$  ボタンを押して設定を決定する。

下記の設定を確認してください。

### ■[センタースピーカー]

[入]：センタースピーカーがつながれているときに選びます。

[切]：センタースピーカーがつながっていないときに選びます。

### ■[距離]

視聴位置からスピーカーまでの距離設定を確認してください。

0.0 m ~ 7.0 m の範囲で設定できます。

[フロント左／右] 3.0 m：フロントスピーカーの距離を設定します。  
[センター] 3.0 m：センタースピーカーの距離を設定します。この設定は「センタースピーカー」が「入」に設定されているときのみ選べます。

[サラウンド左／右] 3.0 m：サラウンドスピーカーの距離を設定します。  
[サブウーファー] 3.0 m：サブウーファーの距離を設定します。

### ■[レベル]

スピーカーのレベルを調節します。  
– 6.0 dB ~ +6.0 dB の範囲で設定できます。[テストトーン] を「入」に設定すると調節がしやすくなります。

[フロント左／右] 0.0 dB：フロントスピーカーのレベルを設定します。

[センター] 0.0 dB：センタースピーカーのレベルを設定します。この設定は「センタースピーカー」が「入」に設定されているときのみ選べます。

[サラウンド左／右] 0.0 dB：サラウンドスピーカーのレベルを設定します。

[サブウーファー] 0.0 dB：サブウーファーのレベルを設定します。

### ■[テストトーン]

テストトーンを出力して「レベル」を調整します。

[切]：スピーカーからテストトーンを出しません。

[入]：レベル調整中は各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。「スピーカー設定」項目のいずれかが選ばれているときは、スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。

以下の方法で音声レベルを調整します。

- 1** [テストトーン] を [入] に設定する。
- 2** **↑/↓** ボタンを押して [レベル] を選び、**□**ボタンを押す。
- 3** **↑/↓** ボタンを押して設定したいスピーカーを選び、**□**ボタンを押す。
- 4** **◀/▶** ボタンを押して左または右のスピーカーを選び、**↑/↓** ボタンを押してレベルを調整する。
- 5** **□**ボタンを押す。
- 6** 手順 3～5 を繰り返す。
- 7** 戻るボタンを押す。  
ひとつ前の画面に戻ります。
- 8** **↑/↓** ボタンを押して [テストトーン] を選び、**□**ボタンを押す。
- 9** **↑/↓** ボタンを押して [切] を選び、**□**ボタンを押す。

#### ご注意

- テストトーンは HDMI 出力端子からは出力されません。
- [センタースピーカー] が [切] に設定されていると、テストトーンはセンタースピーカーから出力されません。

#### ちょっと一言

すべてのスピーカーの音量を同時に調整するには、音量 +/- ボタンを押してください。

## スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本体の電源を切ることができます。

#### スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、表示窓の分表示（残り時間）が 10 分単位で変わります。

スリープタイマーが設定されると、残り時間が 5 分ごとに表示されます。残り時間が 2 分を切ると、表示窓に「SLEEP」が点滅します。

#### 残り時間を確認するには

スリープボタンを一度押す。

#### 残り時間を変えるには

スリープボタンを繰り返し押す。

## 明るさを変える

表示窓と LED 表示の明るさを調整できます。

#### 本体表示ボタンを押す。

本体表示ボタンを押すたびに、項目の明るさが変わります。下記の 3 段階で明るさを調整できます。

[本体表示：明るさ1] / [本体表示：明るさ2] / [本体表示：明るさ3]

#### ご注意

- 表示窓の明るさは3段階とも同じです。ただし、[本体表示：明るさ3]に設定すると、
  - 本機またはリモコンのいずれかのボタンを10秒以上押さない状態が続くと、表示窓とLED表示が消灯します。
  - 本機またはリモコンのいずれかのボタンを押すと、表示窓とLED表示が数秒間点灯します。
- [本体表示：明るさ3]に設定すると、状況によっては、表示窓とLED表示が数秒間点灯したままになることがあります。

## スタンバイ状態時の消費電力を おさえる

下記が設定がされているかご確認ください。

- [HDMI設定]の[HDMI機器制御]が[切]に設定されている(66ページ)。
- [高速起動モード]が[切]に設定されている(67ページ)。
- [リモート起動]が[切]に設定されている(68ページ)。
- [NFC]が[切]に設定されている(66ページ)。

## 設定と調整

# 設定メニューを使う

画像や音声などのさまざまな設定をおこなうことができます。

下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

#### ご注意

メディアに保存されている再生設定は、設定メニューの設定より優先されます。そのため、いくつかの設定は反映されないこともあります。

### 1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

### 2 $\leftrightarrow$ ボタンを押して、【設定】を選ぶ。

### 3 $\uparrow\downarrow$ ボタンを押して設定カテゴリーのアイコンを選び、ボタンを押す。

#### アイコン 説明



【ソフトウェアアップデータ】(63ページ)

本機のソフトウェアをアップデートします。



【映像設定】(63ページ)

テレビの種類によって画面の設定をします。

---

## アイコン 説明

---

**[音声設定]****(65 ページ)**

テレビの接続端子によって音声の設定をします。

**[本体設定] (66 ページ)**

本機に関する設定をします。

**[外部入力設定]****(67 ページ)**

各外部入力に対してスキップ設定をします。

**[通信設定] (68 ページ)**

ネットワークの詳細設定をします。

**[設定初期化]****(69 ページ)**

本機の設定を初期化します。

**ご注意**アップデート機能について詳しくは、下記のホームページをご覧ください。  
<http://www.sony.jp/home-theater/>

---

## ■ [USB メモリーからアップデーター]

USB メモリーを使ってアップデーターします。ソフトウェアアップデーフォルダーの名前が「UPDATE」になっていることをご確認ください。

---

## ■ [映像設定]

### ■ [テレビタイプ]

**[16 : 9]**：ワイド画面のテレビまたはワイドモード機能が搭載されているテレビとつなぐとき、この設定を選びます。**[4 : 3]**：画面サイズが 4 : 3 でワイドモード機能が搭載されていないテレビとつなぐとき、この設定を選びます。

### ■ [画面モード]

**[フル]**：ワイドモード機能が搭載されているテレビとつなぐとき、この設定を選びます。ワイドテレビでも 4 : 3 の画像を 16 : 9 で表示します。**[ノーマル]**：画像の横縦比は維持したまま、画像サイズをテレビの画面サイズに合わせて変更します。

---

## ■ [ソフトウェアアップデート]

ソフトウェアを最新の状態にアップデートすると、最新機能を使用できます。

ソフトウェアのアップデート中は、表示窓に「UPDATE」が表示されます。アップデートが完了すると、本機の電源が自動的に切れます。アップデート中は本機の電源を入／切したり、本機やテレビの操作をしないでください。アップデートが完了するまでお待ちください。

---

## ■[出力映像解像度設定]

[自動]：テレビや他のつないだ機器の解像度に応じて、映像信号を出力します。

[480i] / [480p] / [720p] /

[1080i] / [1080p]：選んだ解像度の設定に応じて、映像信号を出力します。

---

## ■[USB 24p 出力]

[自動]：1080/24p 映像に対応しているテレビと HDMI 接続し、[出力映像解像度設定] を [自動] または [1080p] に設定しているときに、24p 映像を出力します。

[切]：テレビが 1080/24p 映像に対応していないときに選びます。

---

## ■[4K 出力]

[自動1]：4K 対応のソニー製品につないでいるときは、映像再生中に 2K (1920 × 1080) 映像信号を、写真再生中に 4K 映像信号を出力します。

4K 対応の他社製品につないでいるときは、24p 映像コンテンツ再生または写真再生で 4K 映像信号を出力します。

[自動2]：[USB 24p 出力] を正しく設定して 4K/24p 対応機器を接続しているときは、自動的に 4K/24p 映像信号を出力します。また、2D 写真は 4K/24p 写真として出力します。

[切]：機能をオフにします。

### ご注意

[自動1] を選んでいるときに、ソニー製機器を検出できない場合は、[自動2] と同じ設定になります。

---

## ■[HDMI 映像出力フォーマット]

[自動]：外部機器の種類を自動的に検出し、それに適合するカラー設定をします。

[YCbCr (4:2:2)]：YCbCr 映像信号を 4:2:2 の比率で出力します。

[YCbCr (4:4:4)]：YCbCr 映像信号を 4:4:4 の比率で出力します。

[RGB]：HDCP 対応の DVI 端子のある機器と接続するときに選びます。

---

## ■[HDMI Deep Color 出力]

[自動]：通常はこの設定にします。

[16bit] / [12bit] / [10bit]：テレビが Deep Color 機能に対応しているときは、16bit / 12bit / 10bit 映像を出力します。

[切]：映像が安定しないときや色が不自然なときに選びます。

---

## ■[SBM] (Super Bit Mapping)

[入]：HDMI 出力端子から出力される映像信号の階調をなめらかに表現できます。

[切]：映像が乱れたときや色が不自然なときに選びます。

## ■[一時停止モード]

- [自動]：通常はこの設定にします。  
動きの大きい被写体の画像がぶれずに表示されます。
- [フレーム]：動きの少ない被写体の映像が高い解像度で表示されます。

# ④ [音声設定]

## ■[オーディオ DRC]

音声のダイナミックレンジを圧縮することができます。

- [自動]：音源によって定められたダイナミックレンジで再生します。
- [入]：レコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジで音声を再生します。
- [切]：圧縮しません。

## ■[入力レベル抑制設定－ AUDIO]

オーディオ入力（左／右）端子につないでいる機器の音声が歪むことがあります。  
その場合、本機の音声入力レベルを小さくして歪みを防ぐことができます。

- [入]：入力レベルを小さくします。  
本機からの出力は小さくなります。
- [切]：入力レベルはそのままとなります。

## ■[音声出力]

音声信号の出力方法を選べます。

[スピーカー]：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーからのみ出力します。

[スピーカー + HDMI]：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーから、

2チャンネルリニア PCM 信号を HDMI 出力端子から出力します。

[HDMI]：HDMI 出力端子からのみ音声を出力します。音声フォーマットはつないだ機器によって異なります。

### ご注意

[HDMI 機器制御] を「入」に設定していると（66 ページ）、[音声出力] は自動的に「スピーカー + HDMI」に設定され、設定を変えることはできません。

## ■[サウンドエフェクト]

本機のサウンドエフェクトを有効／無効にすることができます（サウンドフィールド 設定（40、41 ページ））。

2チャンネル音源のときは、  
[Dolby Pro Logic]、[DTS Neo:6 Cinema] または [DTS Neo:6 Music] を選んで、サラウンド音声をシミュレートできます。

[サウンドフィールド入]：サウンドフィールドのサラウンドエフェクトを有効にします（40 ページ）。

[Dolby Pro Logic]：2 チャンネルの音声をサラウンド音声にシミュレートして、すべてのスピーカー（5.1 チャンネル）から音声を出力します（Dolby Pro Logic デコーディング）。

[DTS Neo:6 Cinema] / [DTS Neo:6 Music]：2 チャンネルの音声をサラウンド音声にシミュレートして、マルチチャンネル音声とします。（DTS Neo:6 Cinema / DTS Neo:6 Music デコーディング）。

[2ch ステレオ]：音声をフロント左／右スピーカー、サブウーファーからのみ出力します。マルチチャンネル音声のときは、2 チャンネルにダウンミックスして出力します。  
[切]：サウンドエフェクトを無効にします。レコーディングされたままの音声を聞くことができます。

### ■[オートジャンルセレクター]

[入]：デジタル放送のテレビ番組ジャンルに応じて、サウンドフィールドを自動的に切り替えます。

[切]：機能を無効にします。

### ■[スピーカー設定]

サラウンド音声を充分に楽しむために、スピーカーの設定をします。詳しくは、「スピーカーの設定をする」（59 ページ）をご覧ください。

## ①\_i [本体設定]

### ■[HDMI 設定]

#### [HDMI 機器制御]

[入]：[HDMI 機器制御] 機能を有効にします。HDMI ケーブルでつながれた機器を相互に操作することができます。

[切]：機能を無効にします。

#### [オーディオリターンチャンネル(ARC)]

本機をオーディオリターンチャンネル機能に対応したテレビの HDMI 入力端子につないでいて、[HDMI 機器制御] を [入] に設定しているときに、この機能を使うことができます。

[自動]：HDMI ケーブルを経由して、自動的にテレビのデジタル音声信号を受信します。

[切]：機能を無効にします。

### ■[NFC]

[入]：NFC 機能を有効にして、ワイヤレスリスニング機能やミラーリング機能をお楽しみいただけます（47 ページ）。

[切]：機能を無効にします。

**■[高速起動モード]**

[入]：スタンバイ状態からの起動時間を短くします。本機の電源を入れるとすぐに本機を使うことができます。

[切]：お買い上げ時の設定です。

**■[自動電源オフ]**

[入]：[自動電源オフ] 機能を有効にします。何も操作されないまま20分以上が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

[切]：機能を無効にします。

**■[自動画面表示]**

[入]：タイトル、画像モード、音声信号などを変えたときに、情報を画面に自動的に表示します。

[切]：画面表示ボタンを押したときのみ、情報を表示します。

**■[スクリーンセーバー]**

[入]：スクリーンセーバー機能を有効にします。

[切]：機能を無効にします。

**■[機器名]**

「BT」ファンクションや「SCR M」ファンクション使用中にわかりやすくするために、本機の名前をお好みの名前に変えることができます。画面の指示にしたがって、ソフトウェアのキーボードで名前を入力してください。

**■[本体情報]**

本機のソフトウェアバージョンと、MAC アドレスを表示します。

**■[ソフトウェアライセンス]**

ソフトウェアライセンスを表示します。



## [外部入力 設定]

**■[入力スキップ設定]**

ファンクションボタンを押してファンクションを選ぶときに、不要な入力をスキップすることができる機能です。

[スキップしない]：選んだファンクションをスキップしません。

[スキップする]：選んだファンクションをスキップします。

**■[Bluetooth AUDIO – AAC]**

AAC 音声を有効／無効にすることができます。

[入]：BLUETOOTH 機器が AAC 対応のときは、AAC 音声を出力します。

[切]：SBC 音声を出力します。

### ご注意

AAC が有効のときに、高音質をお楽し  
みいただけます。接続機器が AAC 非対  
応の場合は、[切] を選んでください。

### ちょっと一言

さらに詳しくは、下記のホームページの  
「Q&A」をご覧ください。  
<http://www.sony.jp/home-theater/>

## ■[Bluetooth 電源設定]

[入]：BLUETOOTH 電源をオンにし  
ます。

「BT」ファンクション以外のファン  
クションで、本機とペアリングした  
BLUETOOTH 機器から接続するこ  
とが可能です。

[切]：「BT」ファンクションが選ば  
れているときのみ、BLUETOOTH  
電源がオンになります。

### ご注意

特定のアプリケーション使用時には、  
[Bluetooth 電源設定] を [入] に設定  
していても、BLUETOOTH 機器から直  
接接続できない場合があります。その場  
合は、BLUETOOTH ボタンを押してく  
ださい。



# 【通信設定】

## ■[無線 LAN 設定]

本機に内蔵の無線 LAN を使って、  
あらかじめ本機をネットワークにつ  
なぎ、ワイヤレスネットワーク接続  
を確立させます。詳しくは、「手順  
3：ネットワーク接続の準備」(36  
ページ)をご覧ください。

## ■[ネットワークの設定確認]

現在のネットワークの接続状態を表  
示します。

## ■[自動レンダラーアクセス許 可]

[入]：新たに検出されたコントロー  
ラーからの自動アクセスを許可しま  
す。

[切]：機能を無効にします。

## ■[レンダラーアクセス制御設 定]

コントローラーからコマンドを受ける  
かどうか設定します。

## ■[リモート起動]

[入]：本機がスタンバイ状態のとき  
に、ネットワークにつながっている  
機器を使って、本機の電源を入れる  
ことができます。

[切]：ネットワークにつながってい  
る機器を使って、本機の電源を入れ  
ることができません。

# 【設定初期化】

## ■【お買い上げ時の状態に設定】

設定グループごとに、本機の設定をお買い上げ時の設定に戻します。グループ内のすべての設定がリセットされます。

## ■【個人情報の初期化】

本機に保存した個人情報を削除できます。

## その他

# 使用上のご注意

## 安全について

- キャビネットに固い物体が落ちたり、液体がかかったりした場合は、使用を中止して本機の電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口（裏表紙参照）にお問い合わせください。
- ぬれた手で電源コードを触らないでください。感電の原因となります。

## 電源について

長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜くときは、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。

## 設置場所について

- 本機は風通しの良い場所に設置し、本機内の温度が上昇しないようにしてください。
- 操作中に温度が上昇しても、故障ではありません。大音量で使用し続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板がかなり熱くなります。火傷防止のため、キャビネットを触らないでください。

- 通気孔をふさぐ危険があるため、本機をやわらかいもの（じゅうなんや毛布など）の上に置かないでください。
- ラジエーター、エアダクトのような熱を発するものの近くや、直射日光が当たる場所、ほこりの多い場所、振動や衝撃のある場所には、本機を設置しないでください。
- 本機を傾いた場所に設置しないでください。本機は、水平な場所で使用するように設計されています。
- 本機は、電子レンジや大音量スピーカーなど強い磁気を発するものから離して使用してください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。
- フロントパネルの前に金属製品を置かないでください。ラジオの受信状態が悪くなることがあります。
- 医療機器が使用されている場所では本機を使用しないでください。医療機器の誤作動の原因となることがあります。
- ペースメーカーなどの医療機器を使用している場合は、無線 LAN 機能を使用する前に、担当の医師または医療機器のメーカーにご相談ください。

## 音量調節について

入力レベルが低いパートや音声信号がないときは、音量を上げないでください。音量の大きなパートが突然再生されると、スピーカーが故障するおそれがあります。

## お手入れについて

キャビネットやパネル面、操作部は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。研磨パッド、研磨剤、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

## 部品の交換について

本機の修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。

## テレビの色調について

スピーカーがテレビの色むらの原因となった場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に電源を入れてください。色むらが直らない場合は、スピーカーをテレビから離して設置してください。

**重要なお知らせ**

ご注意：本機では、停止映像または画面表示をテレビ画面に時間制限なしで表示できます。テレビ画面に停止映像や画面表示を長時間表示させたままにしておくと、テレビ画面に永久損傷を与える危険があります。プラズマディスプレイパネルテレビやプロジェクションテレビでは、特にご注意ください。

**本機の移動について**

本機を移動させる前に、必ず電源コードを壁のコンセントから抜いてください。

**故障かな？と思ったら**

本機の使用中に以下の問題が発生した場合は、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

**本機での操作****電源が入らない。**

→ 電源コードがしっかりと差し込まれているかどうか確認してください。

**リモコンで操作できない。**

- リモコンと本機との距離を近付けて操作してください。
- リモコンの電池が消耗していないか確認してください。

**本機が正常に作動しない。**

- 電源コードをコンセントから抜いて、数分後に再び電源コードをつないでください。

**メッセージ****表示窓に「PRTECT」、「PUSH」および「POWER」が表示窓に交互に表示される。**

- 電源ボタンを押して本機の電源を切り、「STBY」が消えたら下記の項目を確認してください。
  - +/-スピーカーコードがショートしていませんか。
  - 付属のスピーカー以外のスピーカーを使用していませんか。
  - 本機の通気孔をふさいでいませんか。
  - 上記の項目を確認して問題を解決したら、本機の電源を入れてください。上記の項目すべてを確認しても原因がわからない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）をご相談ください。

**表示窓に「D. MODE」が表示される。**

- お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）をご相談ください。

**表示窓に「Exxx」(xは数字)が表示される。**

→ お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）に、エラーコードを提示の上、ご相談ください。

**テレビ画面全体にメッセージなしで△が表示される。**

→ お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

**いずれかのサウンドフィールドボタンを押すと、表示窓に「NOT USE」が表示される。**

→ [サウンドエフェクト] が [サウンドフィールド入] 以外に設定されているときは、サウンドフィールドボタンの設定を変えることができません。[音声設定] の [サウンドエフェクト] を [サウンドフィールド入] に設定してください。

## 画像

**映像が出ない、正しく出力されない。**

→ 本機の映像出力方法が正しいかどうか確認してください（32ページ）。

→ ■ボタン、画面表示ボタン、➔ボタン、▲ボタンを順に押して、映像出力の解像度を最低に戻してください。

→ USB の場合は、[映像設定] の [USB 24p 出力] 設定を確認してください（64 ページ）。

**HDMI 接続時に映像が出ない。**

→ HDCP (Highbandwidth Digital Content Protection) に対応していない入力機器に本機をつないでいないか確認してください（表示窓に「HDMI」が点灯していない）（32 ページ）。

**暗い部分が暗すぎる／明るい部分が明るすぎる。**

→ [画質モード] を [スタンダード]（お買い上げ時の設定）にしてください（51 ページ）。

**画像がテレビ全体に表示されない。**

→ [映像設定] の [テレビタイプ] の設定を確認してください（63 ページ）。

→ 記録メディアの画像の縦横比が固定されていないか確認してください。

**テレビ画面に色むらが起きる。**

→ ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターといっしょにスピーカーを使用する場合は、テレビから 0.3 メートル以上離れたところにスピーカーを設置してください。

- テレビの色むらが改善されない場合は、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再び電源を入れてください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するもの（テレビスタンドに装着されている磁石、健康器具、おもちゃなど）を置かないないように注意してください。

## 音声

### 音が出ない。

- スピーカーコードが本体にしつかり差し込まれているか確認してください。
- スピーカーの設定を確認してください（59ページ）。

### オーディオリターンチャンネル機能を使うと、本機のHDMI出力端子につないだテレビの音が出ない。

- [本体設定] にある [HDMI設定] の [HDMI機器制御] を [入] に設定してください（66ページ）。また、[本体設定] にある [HDMI設定] の [オーディオリターンチャンネル(ARC)] を [自動] に設定してください（66ページ）。
- テレビがオーディオリターンチャンネル機能に対応しているかどうか確認してください。

- オーディオリターンチャンネル機能対応のテレビの端子に、HDMIケーブルがつながっていることを確認してください。

### ケーブルテレビチューナーがつながれているときに、テレビ番組の音声が正しく出力されない。

- [本体設定] にある [HDMI設定] の [オーディオリターンチャンネル(ARC)] を [切] に設定してください（66ページ）。
- 接続を確認してください（34ページ）。

### ノイズがひどい。

- テレビからオーディオ機器を離して設置してください。
- つないだ機器で使用しているディスクをきれいにしてください。

### センタースピーカーからのみ音が出る。

- メディアによっては、センタースピーカーからのみ音が出ます。

### サラウンドスピーカーから音が出ない、または音が小さい。

- スピーカー接続と設定を確認してください（32、59ページ）。
- サウンドフィールドの設定を確認してください（40ページ）。
- 音源によっては、サラウンドスピーカーの効果を得られにくい場合があります。

- [サウンドフィールド] を [ClearAudio+] に設定してください (40 ページ)。

## つないでいる機器の音声が歪む。

- [入力レベル抑制設定 – AUDIO] を設定して、つないでいる機器の音声入力レベルを小さくして歪みを防いでください (65 ページ)。

## 急に大きな音が出る。

- 本機に内蔵の音声デモンストレーションが有効になっています。

音量 – ボタンを押して音声をおさえるか、■ ボタンを押してデモンストレーションを停止してください。

## チューナー

### 選局できない。

- アンテナがしっかりとつながっているかどうか確認してください。アンテナを調整してください。  
→ 自動選局時は、放送局の電波が弱いため、手動選局をおこなってください。

## 再生する

### ファイル名が正しく表示されない。

- 本機で表示できるのは JIS X 0208:1997 (JIS 第1第2水準漢字) 準拠の文字のみです。それ以外の文字は、別の文字に置き換えられて表示される場合があります。  
→ 書き込み用ソフトウェアによっては、入力された文字が別の文字に置き換えられて表示される場合があります。

### 再生がファイルの最初から始まらない。

- つづき再生（前回停止位置からの再生）が選択されています。オプションボタンを押して [はじめから再生] を選び、□ボタンを押してください。

### 音声や字幕の言語、またはアングルを変更できない。

- マルチリンガル音声や字幕、またはマルチアングルは、再生中のビデオには記録されません。

### 再生が前回停止した位置から始まらない。

- 以下の場合、ファイルによってはつづき再生が解除されます。
- USB 機器の接続を解除した場合。
  - 他のコンテンツを再生した場合。
  - 本機の電源を切った場合。

## スクリーンミラーリングを使うと、再生が安定しない。

- 使用環境によっては、無線 LAN 機器や電子レンジのような電波を発する機器が、スクリーンミラーリングを干渉することがあります。電波を発する機器から、本機とスクリーンミラーリング 対応機器を離して設置してください。または、電波を発する機器の電源を切ってください。
- 使用環境によっては、機器間の距離や障害物、機器の種類、機器の設定や電波が、通信速度に影響する場合があります。回線がふくそうして、接続が遮断される場合があります。

## 有料コンテンツは再生できない場合があります。

- 必ず HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection) システムに対応したソース機器をお使いください。  
非対応のソース機器を経由すると、一部の有料コンテンツが表示されない場合があります。

## USB 機器

### USB 機器が認識されない。

- 以下を試してください。
  - ① 本機の電源を切る。
  - ② USB 機器を抜いて、つなぎ直す。
  - ③ 本機の電源を入れる。

→ USB 機器が  $\downarrow$ (USB) 端子にしっかりとつながれているか確認してください。

- USB 機器またはケーブルが破損していないかどうか確認してください。
- USB 機器の電源が入っているか確認してください。
- USB ハブを経由して本機と USB 機器がつながれている場合は、USB 機器をハブからはすして、本機に直接つないでください。

## “BRAVIA Link” ([HDMI 機器制御])

### [HDMI 機器制御] 機能 (“BRAVIA Link”) が働かない。

- [HDMI 機器制御] を [入] に設定されていることを確認してください (66 ページ)。
- HDMI 接続を変更したときは、本機の電源を切り、もう一度電源を入れてください。
- 停電があったときは、[HDMI 機器制御] を一度 [切] に設定し、その後 [入] に設定してください (66 ページ)。
- 下記を確認して、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
  - つないだ機器が [HDMI 機器制御] 機能に対応している。

- つないだ機器の [HDMI 機器制御] 機能の設定が正しい。

## ネットワーク接続

**本機がネットワークにつながらない。**

→ ネットワークの接続（36 ページ）と設定（68 ページ）を確認してください。

**[Wi-Fi Protected Setup (WPS)] を実行すると、本機をパソコンやインターネットにつなぐことができない。**

→ ルーターの設定を調節する前に Wi-Fi Protected Setup 機能を使うと、ルーターの無線設定が自動的に変わることがあります。その場合は、パソコンの無線設定も変えてください。

**WEP (Wi-Fi セキュリティー) 設定を行ったあとに、リモート機器を SongPal 経由で Wi-Fi につなぐことができない。**

→ パスワードを正しく入力したか確認してください。Wi-Fi パスワードを再度入力してください。

**ネットワークにつながらない、またはネットワーク接続が不安定。**

→ 無線 LAN ルーターの電源が入っているかどうか確認してください。

- ネットワークの接続（36 ページ）と設定（68 ページ）を確認してください。
- 本機と無線 LAN ルーターの間にある壁材、電波の受信状態、障害物など、使用環境によって、本機と無線 LAN ルーター間の通信距離が短くなる場合があります。本機と無線 LAN ルーターを近付けてください。
- 電子レンジ、BLUETOOTH 機器、デジタルコードレス機器など、2.4 GHz 帯の周波数を使用している機器は、本機の通信を妨げことがあります。本機とそれらの機器を離して使用する、またはそれらの機器の電源を切ってください。
- 無線 LAN 接続は使用環境によって不安定になることがあります（特に BLUETOOTH 機能を使用しているときなど）。使用環境を整えてください。

**使いたい無線 LAN ルーターがリストに表示されない。**

→ 戻るボタンを押して前の画面に戻り、[無線 LAN 設定] を再度おこなってください。それでもリストに表示されないときは、ネットワークリストから [新しい接続先の登録] を選んでから、[手動登録] を選んでネットワーク名 (SSID) を手動で入力してください。

## BLUETOOTH 機器

### ペアリングができない。

- BLUETOOTH 機器を本機に近く付けてください。
- 他の BLUETOOTH 機器が本機の近くにあると、ペアリングができない場合があります。その場合は、他の BLUETOOTH 機器の電源を切ってください。
- BLUETOOTH 機器から本機を消去し、もう一度ペアリングを実行してください（44 ページ）。

### 接続ができない。

- ペアリング情報が消えている場合があります。再度ペアリングを実行してください（44 ページ）。

### 音が出ない。

- 「BT」ファンクションが選んでいることを確認してください。
- 本機と BLUETOOTH 機器の距離が離れすぎていないか、Wi-Fi ネットワークや他の 2.4 GHz 無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。
- 本機と BLUETOOTH 機器を正しく BLUETOOTH 接続しているかどうか確認してください。
- 本機と BLUETOOTH 機器を再度ペアリングしてください。

→ 金属製の物質の近くや金属面の上に本機を設置しないでください。

→ BLUETOOTH 機器側で音量を調節して音量が小さいときは、本機側で音量調節します。

### 音が途切れたりゆれる、接続が切れる。

- 本機と BLUETOOTH 機器をできるだけ近付けて設置してください。
- 本機と BLUETOOTH 機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 無線 LAN や他の BLUETOOTH 機器、電子レンジの近くなど、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れてご使用ください。

## 再生できる ファイル

### ビデオ

コーデック	コンテナ	拡張子
MPEG-1 Video	PS	「.mpg」、「mpeg」
	MKV	「.mkv」

コーデック	コンテナ	拡張子
MPEG-2 Video	PS	「.mpg」、 「.mpeg」
	TS	「.m2ts」、 「.mts」
	MKV	「.mkv」
Xvid	AVI	「.avi」
	MKV	「.mkv」
MPEG4/ AVC <sup>*1</sup>	MKV	「.mkv」
	MP4	「.mp4」、 「.m4v」
	TS	「.m2ts」、 「.mts」
	Quick Time	「.mov」
	3gpp/ 3gpp2	「.3gp」、 「.3g2」、 「.3gpp」、 「.3gp2」
	FLV	「.flv」、 「.f4v」
	TS	「.m2ts」、 「.mts」
VC1	MKV	「.mkv」
WMV9	MKV	「.mkv」
	ASF	「.wmv」、 「.asf」
Motion JPEG	Quick Time	「.mov」
	AVI	「.avi」
フォーマット	コンテナ	拡張子
AVCHD <sup>*2</sup>	AVCHD フォーマッ トフォルダ <sup>*3</sup>	

## ミュージック

コーデック	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	「.mp3」
AAC <sup>*5</sup>	「.m4a」、「.aac」
WMA9 Standard	「.wma」
LPCM <sup>*5</sup>	「.wav」
FLAC	「.flac」、「.fla」
Dolby Digital <sup>*5</sup>	「.ac3」
DSF	「.dsf」
DSDIFF <sup>*6</sup>	「.dff」
AIFF	「.aiff」、「.aif」
ALAC	「.m4a」

## フォト

フォーマット	拡張子
JPEG	「.jpeg」、 「.jpg」、「.jpe」
PNG	「.png」 <sup>*4</sup>
GIF	「.gif」 <sup>*4</sup>

<sup>\*1</sup> 本機は AVC レベル 4.1 まで対応しています。

<sup>\*2</sup> 本機は AVCHD Ver.2.0 規格の映像 (AVCHD/Progressive) を再生できます。

<sup>\*3</sup> 本機はデジタルビデオカメラなどで記録された AVCHD 規格の映像を再生できます。

<sup>\*4</sup> アニメーション PNG またはアニメーション GIF ファイルは再生できません。

<sup>\*5</sup> 「.mka」 ファイルは再生できます。

<sup>\*6</sup> 本機は DST エンコードファイルを再生できません。

**ご注意**

- ファイルフォーマット、ファイルエンコーディング、記録状態によっては、ファイルを再生できないことがあります。
- パソコンで編集されたファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- ロスレスやデジタル著作権管理(DRM)などでコード化されたファイルは再生できません。
- USB 機器内の下記のファイルおよびフォルダーを認識します。
  - ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
  - 1つの階層にある500番目までのファイル／フォルダー
- 本機は以下のフレームレートに対応しています。
  - 60fpsまで(AVCHDフォーマットのみ)
  - 30fpsまで(AVCHD以外のフォーマット)
- 本機は40Mbpsまでのビデオビットレートに対応しています。
- 本機は1920×1080pまでのビデオ解像度に対応しています。
- USB 機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストレージクラス(MSC)機器(フラッシュメモリーやハードディスクなど)および静止画像キャプチャデバイスクラス(SICD)機器を認識します。

# 保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになられません。

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- 記録内容(コンテンツ)については、保証の対象外です。
- 当社にて記録内容(コンテンツ)の修復、復元、複製などは行いません。

## アフターサービス

### 調子が悪いときはまずチェックとご相談を

「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

## それでも具合が悪いときはソ

### ニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-IV300
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

## 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

## 部品の保有期間について

当社ではホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

## 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

## 対応音声フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	ファンクション	
	“HDMI 1 ／HDMI 2”	TV／ COAX (デジタル音 声入力)
LPCM 2ch	○	○
LPCM	○	-
5.1ch、 LPCM 7.1ch		
Dolby Digital	○	○
Dolby TrueHD、 Dolby Digital Plus	○	-
DTS	○	○
DTS-ES	○*	○*
Discrete 6.1、 DTS-ES Matrix 6.1		
DTS96/24	○	○

ファンクション		
フォーマット	“HDMI 1 ／HDMI 2”	TV／ COAX (デジタル音 声入力)
DTS-HD High Resolution Audio	○	-
DTS-HD Master Audio	○	-
MPEG-2 AAC	○	○

○：対応

-：非対応

\* DTS 5.1ch としてデコードされます。

#### ご注意

LPCM 2ch フォーマットのデジタル信号の対応サンプリング周波数は、「TV」および「COAX」ファンクションでは 48kHz まで対応しています。

## 主な仕様

### アンプ部

#### 実用最大出力

(非同時駆動、JEITA\*)

#### フロント部：

100 W + 100 W (1 kHz、3 Ω)

#### センター部：

200 W (1 kHz、6 Ω)

#### サラウンド部：

100 W + 100 W (1 kHz、3 Ω)

### サブウーファー部：

200 W (80 Hz、6 Ω)

\* JEITA (電子情報技術産業協会) による測定値です。

### 入力 (アナログ)

#### オーディオ入力

感度：1.6 V / 500 mV

### 入力 (デジタル)

#### COAXIAL (同軸)

#### TV (オーディオリターンチャンネル／光入力)

対応フォーマット：LPCM 2CH  
(最大 48 kHz)、ドルビーデジタル、DTS

### HDMI 入力 (HDMI 1) / HDMI 入力 (HDMI 2)

対応フォーマット：LPCM  
5.1CH (最大 48 kHz)、LPCM  
2CH (最大 96 kHz)、ドルビー  
デジタル、DTS

### HDMI 部

#### 端子：

A タイプ (19 ピン)

### USB 部

#### Ψ(USB) 端子：

A タイプ (USB メモリー、  
メモリーカードリーダー、  
デジタルスチルカメラ、および  
デジタルビデオカメラ接続用)

### 無線 LAN 部

#### 標準規格：

IEEE 802.11 a/b/g/n

#### 使用周波数帯域：

2.4 GHz、5 GHz

## **BLUETOOTH 部**

### **通信方式 :**

BLUETOOTH 標準規格 3.0

### **出力 :**

BLUETOOTH 標準規格 Power Class 2

### **最大通信距離 :**

見通し距離 約 10 m<sup>1)</sup>

### **使用周波数帯域 :**

2.4 GHz

### **変調方式 :**

FHSS (周波数ホッピング方式)

### **対応 BLUETOOTH プロファイル<sup>2)</sup> :**

A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.3 (Audio Video Remote Control Profile)

### **対応コーデック<sup>3)</sup> :**

SBC<sup>4)</sup>、AAC

### **対応コンテンツ保護方式 :**

SCMS-T フォーマット

### **再生周波数範囲 (A2DP) :**

20 Hz ~ 20,000 Hz (サンプリング周波数 44.1 kHz、48 kHz)

1) 通信距離は目安です。機器間の障害物、電子レンジ周辺の磁場、静電気、コードレス電話、受信感度、アンテナ性能、OS、ソフトウェアアプリケーションなどの要因により通信距離が変わります。

2) BLUETOOTH 標準規格は、機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

3) コーデック：音声の圧縮、変換のフォーマットです

4) Subband Codec の略です

## **FM チューナー部**

### **回路方式 :**

PLL デジタルシンセサイザー

クオーツロック方式

### **受信周波数 :**

76.0 MHz ~ 90.0 MHz

(100 kHz 間隔)

### **アンテナ :**

FM ワイヤーアンテナ

## **スピーカー**

### **フロント／サラウンド**

(SS-TSIV300)

#### **最大外形寸法**

(幅／高さ／奥行き) (約) :

100 mm × 114 mm × 102 mm

(壁取り付け時、横向き)

114 mm × 100 mm × 102 mm

(スピーカーすべて、縦向き)

#### **質量 (約) :**

0.41 kg

(スピーカーコードを含まず)

## **センター (SS-CTIV300)**

#### **最大外形寸法**

(幅／高さ／奥行き) (約) :

100 mm × 114 mm × 102 mm

(壁取り付け時、横向き)

114 mm × 100 mm × 102 mm

(スピーカーすべて、縦向き)

#### **質量 (約) :**

0.44 kg (スピーカーコードを含む)

## サブウーファー (SS-W5IV300)

### 最大外形寸法

(幅／高さ／奥行き) (約)：  
245 mm × 350 mm × 325 mm

### 質量 (約) :

6.2 kg (スピーカーコードを含む)

## 本機での操作

### 電源 :

100 V AC、50/60 Hz

### 消費電力 :

電源入り時 : 100 W  
スタンバイ時 : 0.3 W  
(設定について詳しくは、62 ページをご覧ください。)

### 最大外形寸法

(幅／高さ／奥行き) (約)：  
249 mm × 62.5 mm ×  
229.5 mm (突起部分を含む)

### 質量 (約) :

1.6 kg

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」  
です。

本機の仕様および外観は、改良のため  
予告なく変更することがあります  
が、ご了承ください。

**環境配慮情報** • オートオフ機能搭載

# 索引

## あ行

アップデート 63  
オーディオリターンチャンネル 66  
オートジャンルセレクター 59

## か行

画音同期調整 52  
かんたん設定 38

## さ行

再生情報 43  
サッカーモード 41  
システムオーディオコントロール 58  
スクリーンミラーリング 46、49  
スピーカー設定 59、66  
Distance 60  
Level 60  
スライドショー 51  
スリープ 61  
ソフトウェアアップデート 63

## た行

デジタルミュージックアリーナ 50

## は行

表示窓 23  
プラビアリンク 56  
フロントパネル 22  
本体表示 61

## ら行

リアパネル 24  
リモコン 25

## わ行

ワイヤレスネットワーク設定 68

## A-Z

AAC 52  
Attenuation settings - AUDIO 65  
Audio DRC 65  
Audio Output 65  
Audio Settings 65  
Auto Display 67  
Auto Renderer Access Permission 68  
Auto Standby 67  
BLUETOOTH 43  
Bluetooth AUDIO - AAC 67  
Bluetooth Power Setting 68  
External Input Settings 67  
FM モード 54  
HDMI  
    YCbCr/RGB (HDMI) 64  
HDMI Deep Colour Output 64  
HDMI 機器制御 66  
Initialise Personal Information 69  
Input Skip Setting 67  
Network Settings 68  
NFC 47  
Pause Mode 65  
Quick Start Mode 67  
Remote Start 68  
Renderer Access Control 68  
Reset to Factory Default  
    Settings 69  
Resetting 69  
SBM 64  
Screen Format 63  
Screen Saver 67  
Screen Settings 63  
Software License Information 67  
SongPal 50  
Sound Effect 65  
System Information 67  
Test Tone 60

TV Type 63  
USB 42  
WEP 37  
WPA2-PSK (AES) 37  
WPA2-PSK (TKIP) 37  
WPA-PSK (AES) 37  
WPA-PSK (TKIP) 37





よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

**使い方相談窓口**

フリーダイヤル  
..... 0120-333-020

携帯電話・PHS・一部のIP電話  
..... 050-3754-9577

**修理相談窓口**

フリーダイヤル  
..... 0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話  
..... 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は  
こちらへお問い合わせください。

**FAX (共通) 0120-333-389**



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

**「306」+「#」**

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

**HDMI**



\* 4 4 8 6 8 4 8 0 2 \* (1)